

# ロシアのウクライナ侵攻による 木材貿易・需給への影響に関する基礎情報の整理

2022年4月27日

基礎研究部 安藤範親・多田忠義

(2022年4月25日時点で入手可能な情報に基づき作成)

目次 .....	1
I ロシア材禁輸・貿易規制 .....	2～3
II ロシア編 .....	4～17
木材輸出の概要 .....	5～6
燃料材の影響 .....	7～9
丸太の影響 .....	10～13
製材の影響 .....	14～16
合板の影響 .....	17～18
小括 .....	19
III 日本編 .....	20～34
木材輸入の概要 .....	21～24
国内合板をめぐる現状認識 .....	25～29
合板需要先である木造住宅を取り巻く現状 .....	30～33
小括 .....	34
IV 今後の見通し・焦点 .....	35～39

# I ロシア材の禁輸・貿易規制

ロシアおよび日本政府によるロシア産木材の禁輸政策、関税引き上げの概要を確認する。

# ロシア・日本による一部木材の禁輸・関税引き上げ措置：単板の禁輸は影響あり

- ロシア政府は、3月9日、政令第 313 号「大統領令第100号を実施するための措置について」により、**2022 年末まで**、我が国を含む「非友好国」に対して、チップ、丸太、単板を輸出禁止とすることを決定。
  - なお、製材品(主にHS4407)は輸出禁止の対象外(2022年4月12日時点)。
- 日本政府は、4月12日、ロシア政府が輸出禁止した木材の**同一品目**を輸入禁止措置の対象とした(同19日施行)。
  - 製材品は禁輸象から外れたものの、最恵国待遇の撤回により、同品の関税率が4.8%から8%へ(4月20日施行)。

禁止対象 (HSコード)	2021年 ロシアからの輸入実績	過去の経緯、日本への影響、当面の見通しなど
4401.21 チップ(針葉樹のもの)	8万トン (13億円)	<ul style="list-style-type: none"> <li>チップ輸入量の1%程度であり、影響は軽微の見込み。</li> </ul>
4401.22 チップ(針葉樹以外)	実績なし	
4403 丸太	3.6万m <sup>3</sup> (9億円)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロシア政府は2007年、丸太輸出税導入を発表し、2010年代以降課税強化。</li> <li>同じく2022年1月、丸太(針葉樹と高付加価値広葉樹)の輸出を禁止禁輸開始。</li> </ul>
4408 単板	<b>24.4万m<sup>3</sup></b> ※2mm厚で換算 (85億円)	<ul style="list-style-type: none"> <li>単板は輸入量(29.4万m<sup>3</sup>)の 82%を占め、国内合板の原料全体に対して2%程度。</li> <li>ロシア産の単板は主にカラマツで、構造用合板のフェース・バック(表裏面)や高強度部材としてLVL(単板積層材)に使用。</li> <li>国産カラマツは、蓄積が限られており、合板・LVLの価格上昇へ。</li> </ul>

(資料)林野庁「ロシアによる「非友好国」に対する一部木材輸出禁止について」<https://www.rinya.maff.go.jp/j/boutai/attach/pdf/boueki-4.pdf>、経済産業省「対ロシア輸入禁止措置」[https://www.meti.go.jp/policy/external\\_economy/trade\\_control/01\\_seido/04\\_seisai/downloadCrimea/20220412sanko.pdf](https://www.meti.go.jp/policy/external_economy/trade_control/01_seido/04_seisai/downloadCrimea/20220412sanko.pdf) を参考に作成

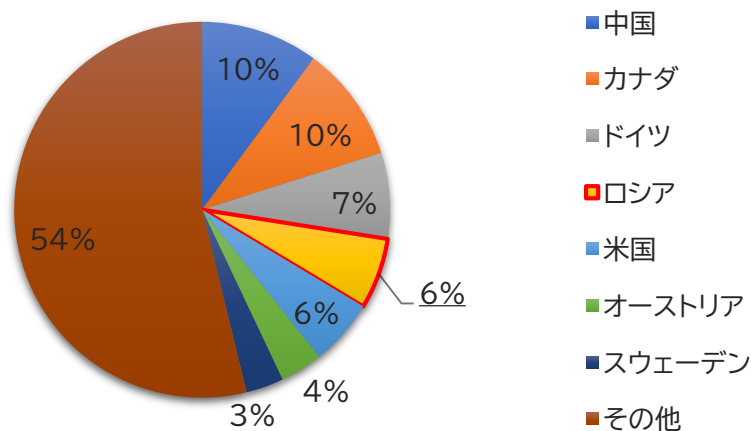
# Ⅱ ロシア編 木材輸出の概要

世界第4位の木材輸出国であるロシアから木材を輸入している各国において、ロシアによる禁輸措置で、各国のどの需要部門の木材が不足するおそれがあるかを概観する。

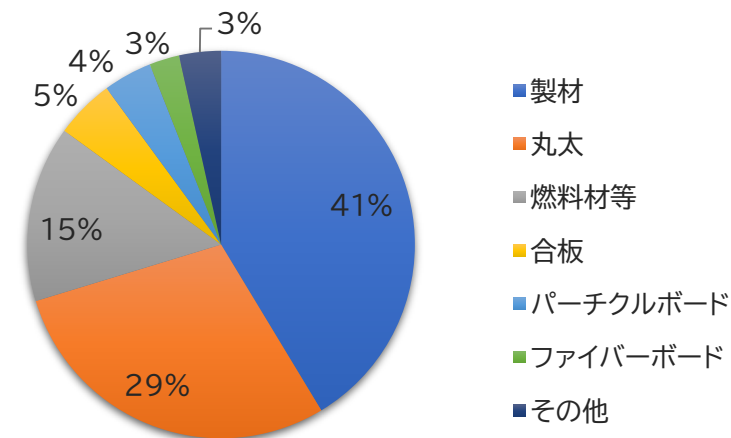
# ロシアの木材輸出動向

- 20年の世界の木材輸出額は、1340億米ドル。ロシアは、82億米ドルで世界第4位(6%)の木材輸出大国。
- 21年のロシアの木材輸出量は4106万t。品目別割合は、製材(4407)が41%、丸太(4403)が29%、チップなどの燃料材等(4401)が15%、合板(4412)が5%の順に多い。

世界の木材輸出額の国別割合  
2020年(44類)



ロシアの木材輸出量の品目別割合  
2021年

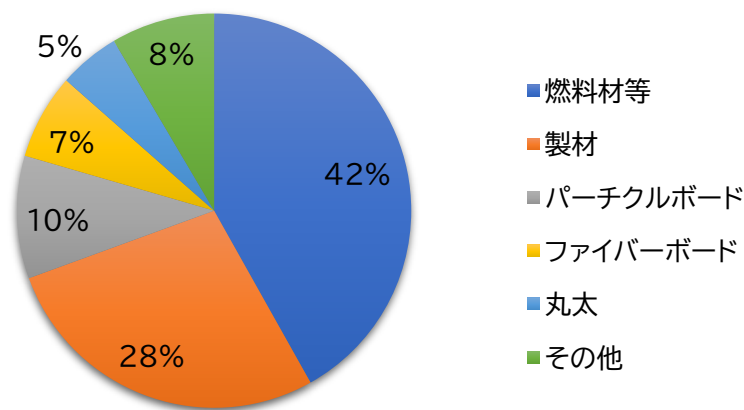


資料: ITC calculations based on UN COMTRADE and ITC statistics.より作成

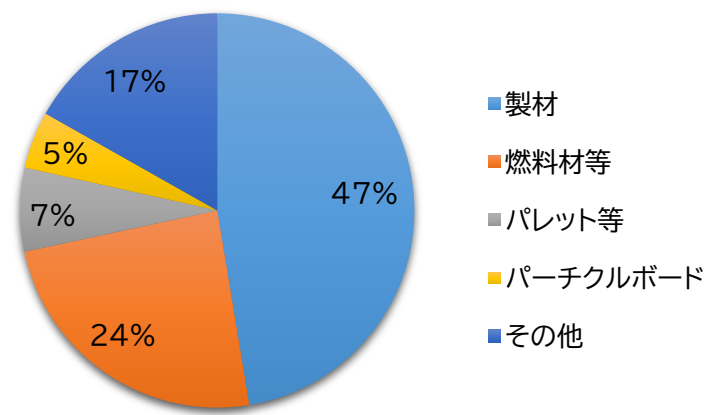
# ベラルーシとウクライナの木材輸出動向

- 20年のベラルーシの木材輸出額は、15億米ドルで世界第41位(1.1%)。木材輸出量は972万t。品目別割合は、燃料材等が42%(407万t)、製材が28%(268万t)の順に多い。
- 20年のウクライナの木材輸出額は、14億米ドルで世界第42位(1.1%)。木材輸出量は442万t。品目別割合は、製材が47%(210万t)、燃料材等が24%(107万t)の順に多い。
- 両国の輸出額の差は小さいものの輸出量は2.2倍の差がある。両国ともに燃料材等、製材が輸出品目に占める割合が高い。

ベラルーシの木材輸出量の品目別割合  
2020年



ウクライナの木材輸出量の品目別割合  
2020年



資料:ITC calculations based on UN COMTRADE and ITC statistics.より作成

# 燃料材等の影響

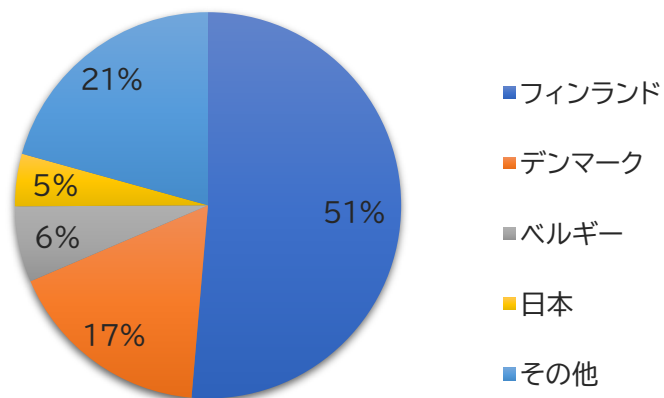
一部がロシアの輸出禁止対象品目



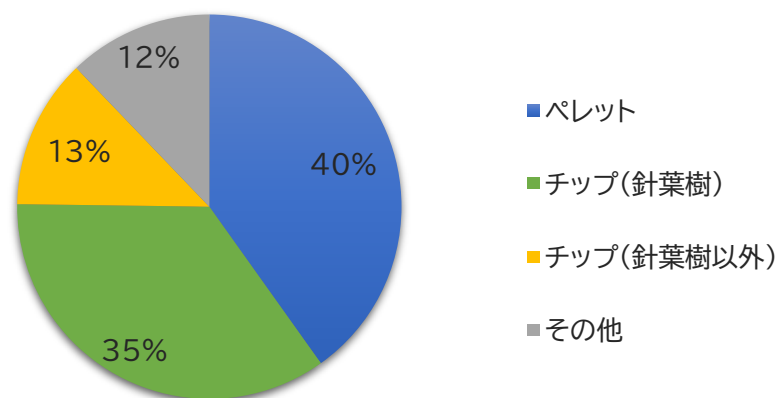
# 輸出禁止対象のチップは、フィンランドのエネルギー利用に影響

- ロシアの燃料材等の輸出量603万tのうち91%(550万t)はEU向け。そのうちの56%(310万t)をフィンランドに輸出。また、輸出量のおよそ半分(48%)はチップであり、輸出禁止対象となっている。
- フィンランドの燃料材等の輸入量は21年に400万t(注:Mirror data)。ロシアの割合は78%(310万t)、そのうちチップの割合は84%(261万t)である。
- ロシアのチップ材輸出禁止は、主にフィンランドに影響を与える。
- ペレットは輸出禁止対象ではないが、デンマークやベルギーなどのEU各国でロシア産を使用。今後はEU域内の製品への需要が高まることが予想される。ドイツの低品質丸太の中国向け輸出(21年340万t)などがEU域内向けへと切り替わる可能性も考えられる。

ロシアの燃料材輸出量の国別割合  
2021年



ロシアの燃料材等の種類別割合  
2021年



ロシアの燃料材国別輸出量  
2021年

	単位:万t
フィンランド	310
デンマーク	104
ベルギー	38
日本	26
その他	125
合計	603

ロシアのEU向け燃料材  
国別輸出量  
2021年

	単位:万t	
	燃料材	うちチップ
フィンランド	310	261
デンマーク	104	4
ベルギー	38	0
英国	16	1
その他	82	13
合計	550	279

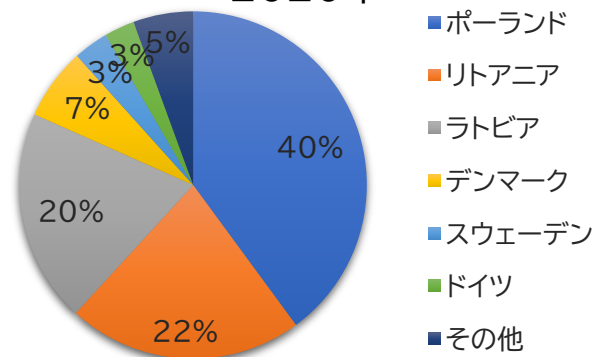
資料:ITC calculations based on UN COMTRADE and ITC statistics.より作成

# ベラルーシやウクライナの燃料材等の輸出量の減少はEUに影響

- 20年のベラルーシの燃料材等の輸出量は、407万t。その多くがEU加盟の隣国のポーランドやリトアニア、ラトビア向け。種類別の割合は、チップ(針葉樹)が40%。ペレットが38%。
- 20年のウクライナの燃料材等の輸出量は、107万t。その多くが隣国のルーマニアやポーランド、トルコなど向け。同国の経済活動停止に伴う影響は小さくないものの、輸出先国の偏りは比較的小さく、輸出先国は他国産へと切り替え可能な量であると予想される。

ベラルーシの燃料材等の輸出量国別割合

2020年



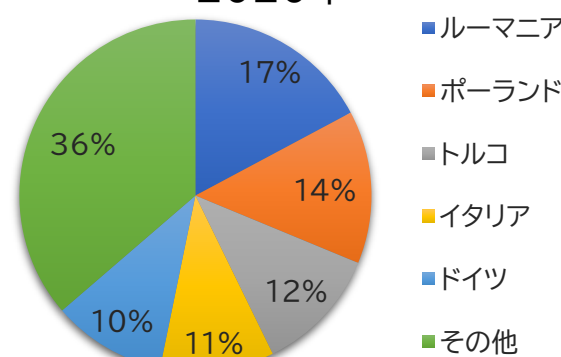
ベラルーシの燃料材等の国別輸出量

単位:万t

ポーランド	162
リトアニア	89
ラトビア	81
デンマーク	27
スウェーデン	13
その他	34
合計	407

ウクライナの燃料材等の輸出量国別割合

2020年



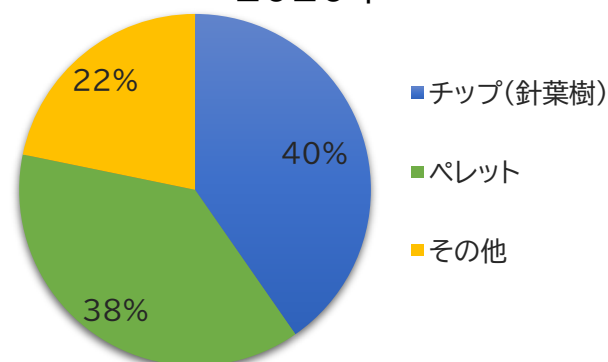
ウクライナの燃料材等の国別輸出量

単位:万t

ルーマニア	18
ポーランド	15
トルコ	12
イタリア	11
ドイツ	11
その他	39
合計	107

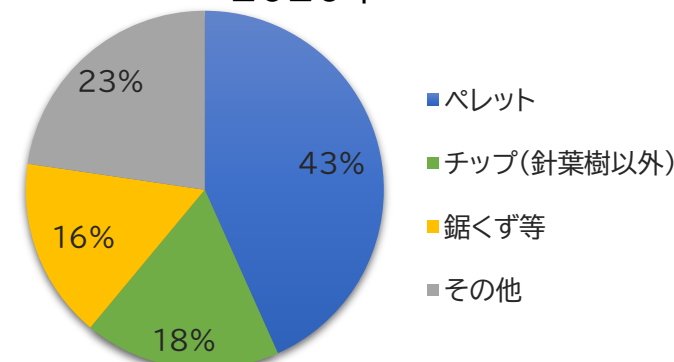
ベラルーシの燃料材等の輸出量種類別割合

2020年



ウクライナの燃料材等の輸出量種類別割合

2020年



資料:ITC calculations based on UN COMTRADE and ITC statistics.より作成

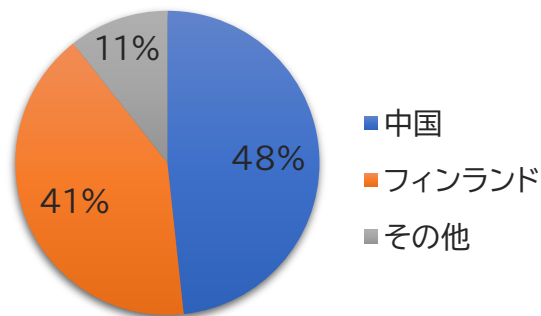
# 丸太の影響

ロシアの輸出禁止対象品目

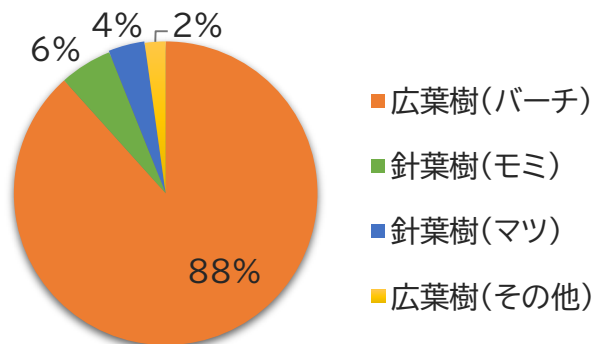
# 輸出禁止対象の丸太は、フィンランドのパルプ製造に影響

- ロシアは、22年1月以降より丸太輸出禁止を導入したが、付加価値の低い広葉樹丸太については輸出を許可していた。その多くは中国、フィンランド向けである。これが輸出禁止対象となりフィンランドへの影響は大きい。
- フィンランドは、広葉樹丸太の多くをロシアから輸入しており、パルプ用材として主に利用している。
- フィンランドの広葉樹パルプ生産の国産材率は、60%台半ば前後で推移。広葉樹パルプ生産への影響が予想される。

ロシアの丸太輸出量の国別割合  
2021年



ロシアのフィンランド向け  
丸太輸出量の樹種別割合  
2021年



資料: ITC calculations based on UN COMTRADE and ITC statistics. より作成

ロシアの丸太輸出量(中国除く, 推定値)  
2021年

単位: 万m<sup>3</sup>

フィンランド	488
その他	126
合計	614

注: 単位をトンから立米へ換算。係数は1.0と仮定。

フィンランドの広葉樹丸太消費量の推移

単位: 万m<sup>3</sup>

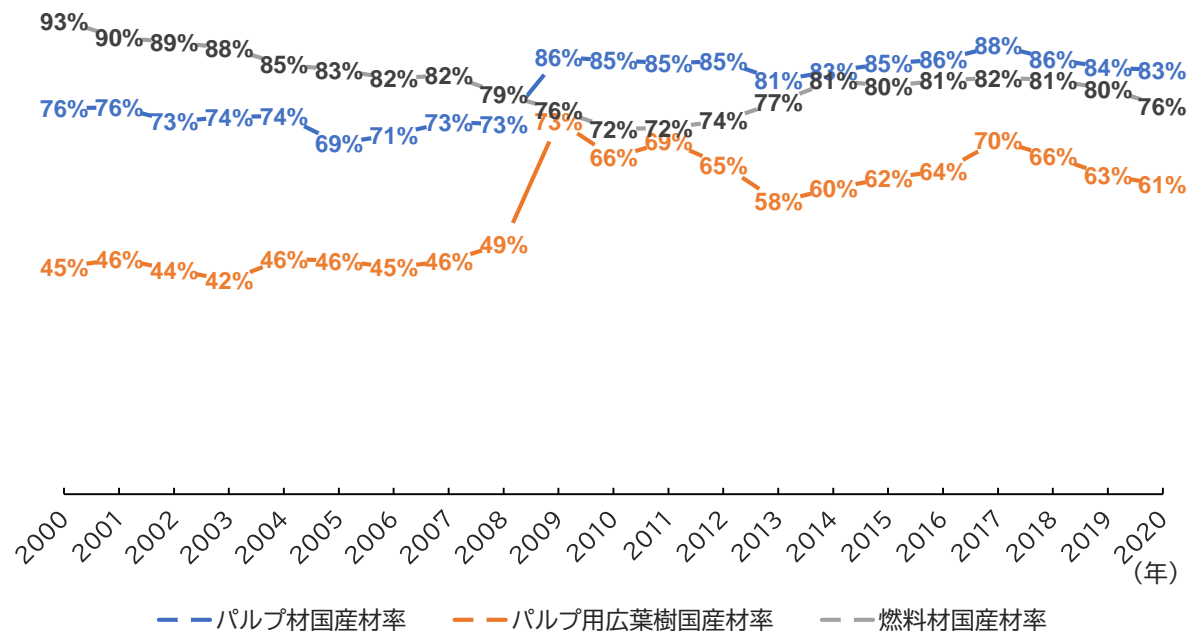
	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
広葉樹丸太消費量	1,404	1,433	1,482	1,514	1,446
うち国産材	919	1,019	1,002	977	911
うちパルプ用	814	909	898	877	818
うち輸入材	485	415	480	538	536
うちパルプ用	466	398	455	522	524
国産材率	65%	71%	68%	65%	63%

資料: OSF: Natural Resources Institute Finland, Forest industries' wood consumption. より作成

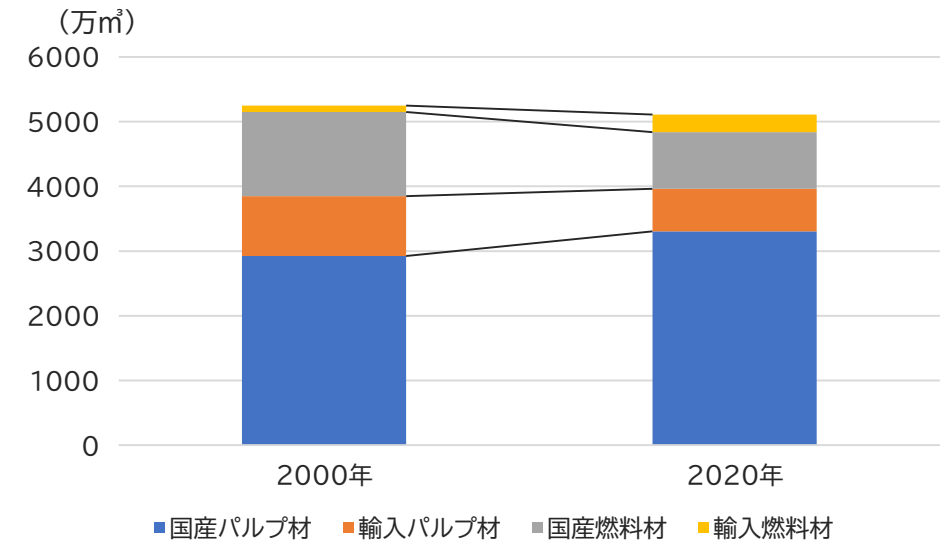
# 燃料材とパルプ材はトレードオフの関係

- フィンランドは、パルプ材の輸入量を減らし国産材の割合を高めてきた一方、燃料材は、輸入量を増やし国産材の割合を下げてきた。その結果、国産パルプ材と国産燃料材を合計した消費量に大きな変化はない。
- 燃料材については、禁輸措置が講じられていないペレットをロシアから輸入してチップを代替できるが、FSCやPEFCなどの国際認証機関がロシア産木材を「紛争木材」に分類したことから、フィンランドが国際認証を取得していないロシアのペレットへと切り替え輸入するかは不透明。
- 同国は、不足分を国産材で補うことができるかがカギとなる。

フィンランドのパルプ材と燃料材の  
国産材率の推移



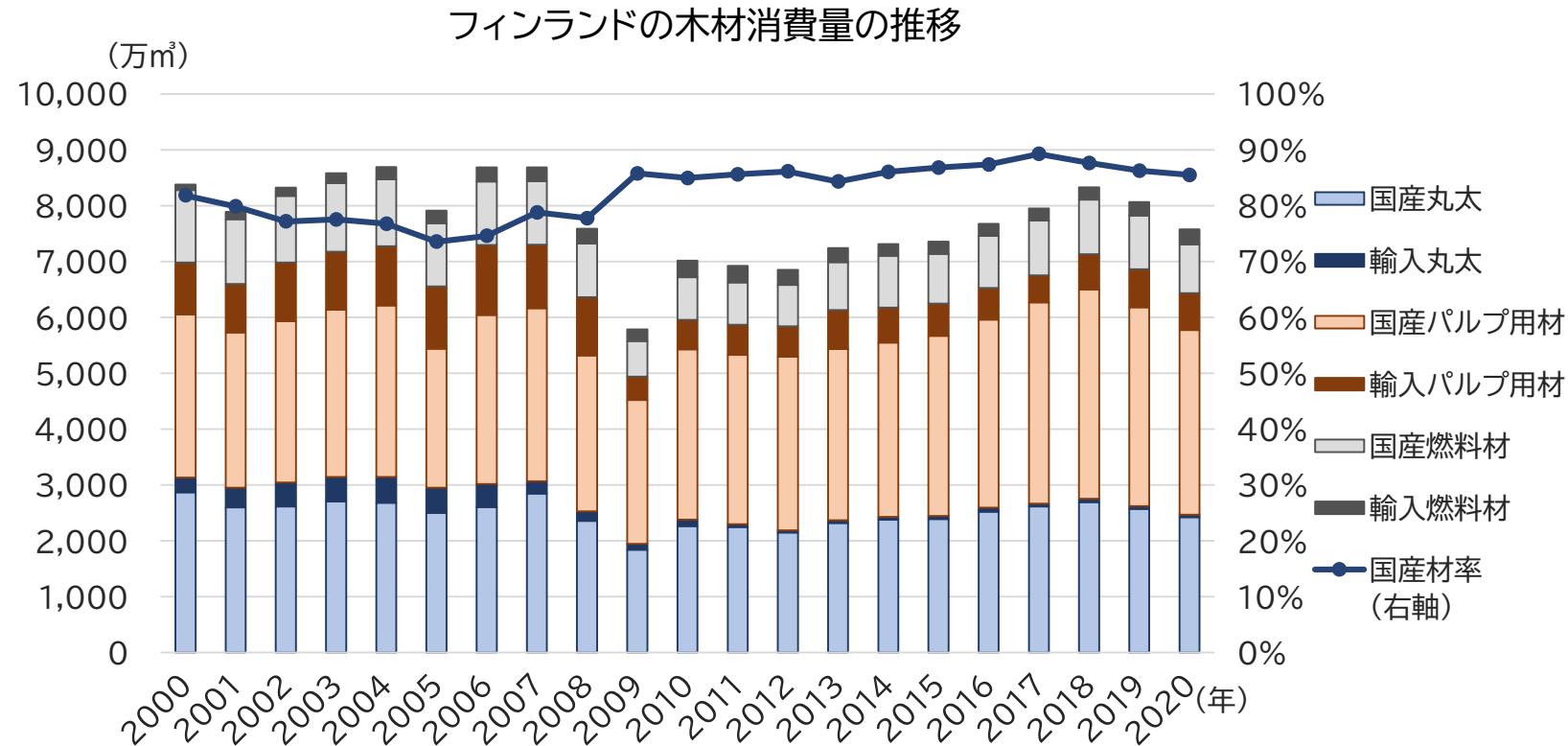
フィンランドのパルプ材と燃料材の  
消費量比較



資料: OSF: Natural Resources Institute Finland, Forest industries' wood consumption. より作成

# フィンランドの国産材率が高い

- 20年のフィンランドの木材製造業の木材消費量は6700万 $\text{m}^3$ 。うち国産材5730万 $\text{m}^3$ 、輸入材970万 $\text{m}^3$ 。国産材率86%。
- 国産材率は高く、18年の国産材消費量が6447万 $\text{m}^3$ であったことを踏まえると、20年程度の消費水準であればロシアからの輸入量の減少を国産材で補える可能性。
- ただし、燃料材は、主産物(丸太や製材等)の生産過程から派生する副産物であることから、主産物の生産動向が燃料材の生産量に影響を与える。



資料: OSF: Natural Resources Institute Finland, Forest industries' wood consumption. より作成

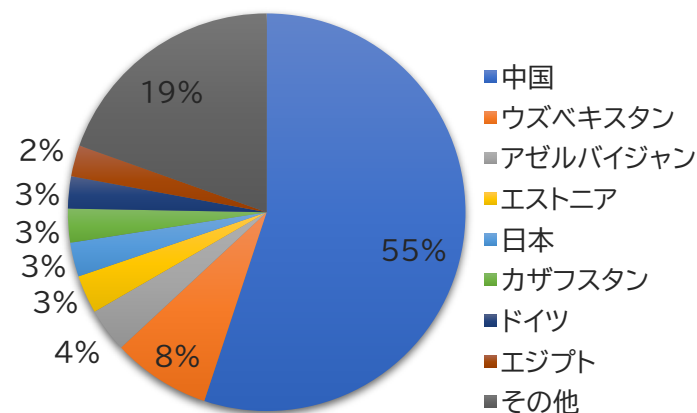
# 製材の影響



# 製材輸出の減少は、EUや日本に影響

- ロシアの製材輸出は、中国向けが過半を占める。その他、ウズベキスタンやアゼルバイジャンなどの隣国が多い。非友好国に対しては、日本(21年80万m<sup>3</sup>)のほかEU(英国含む)(同462万m<sup>3</sup>)へ輸出。
- ベラルーシは主にEU(同373万m<sup>3</sup>)へ。ウクライナは中国やトルコ、インドなどのほか、EU諸国へ輸出。
- 製材において、ウクライナの経済活動停止に伴う影響は小さいものの、輸出先国は他国へと切り替え可能な量であると予想される。なお、製材はロシアの輸出禁止対象品目ではないものの、経済制裁の影響のほか、国際認証を使用できなくなったロシア・ベラルーシの製材がEU域内でどれほど取り扱われるのか不透明である。

ロシアの製材輸出量の国別割合  
2021年



国別製材輸出量

	(ロシア)	(推定値)	(ベラルーシ)	(推定値)	(ウクライナ)	(推定値)		
	単位:万t	単位:万m3	単位:万t	単位:万m3	単位:万t	単位:万m3		
中国	935	(1590)	リトアニア	64	(109)	中国	62	(105)
ウズベキスタン	136	(231)	ラトビア	45	(77)	ハンガリー	20	(34)
アゼルバイジャン	61	(103)	ドイツ	34	(58)	トルコ	19	(32)
エストニア	53	(90)	ポーランド	27	(46)	ルーマニア	13	(22)
日本	47	(80)	中国	27	(45)	イタリア	11	(20)
カザフスタン	47	(79)	オランダ	15	(25)	ポーランド	11	(18)
ドイツ	44	(75)	ベルギー	13	(22)	モルドバ	10	(17)
エジプト	43	(73)	エストニア	8	(13)	ドイツ	8	(14)
タジキスタン	33	(56)	アゼルバイジャン	6	(11)	インド	7	(12)
その他	299	(509)	その他	29	(49)	その他	48	(82)
合計	1698	(2886)	合計	268	(455)	合計	210	(357)

3ヶ国の  
EU向け国別製材輸出量

	(推定値)
	単位:万t 単位:万m3
リトアニア	88 (150)
ドイツ	87 (147)
ラトビア	70 (119)
エストニア	62 (106)
ポーランド	44 (74)
オランダ	36 (62)
フィンラン	30 (51)
ベルギー	29 (49)
英国	25 (42)
その他	107 (183)
合計	577 (981)

注:ロシアは、21年の値。ベラルーシ、ウクライナは、20年の値。トンから立米への換算係数は1.7と仮定。

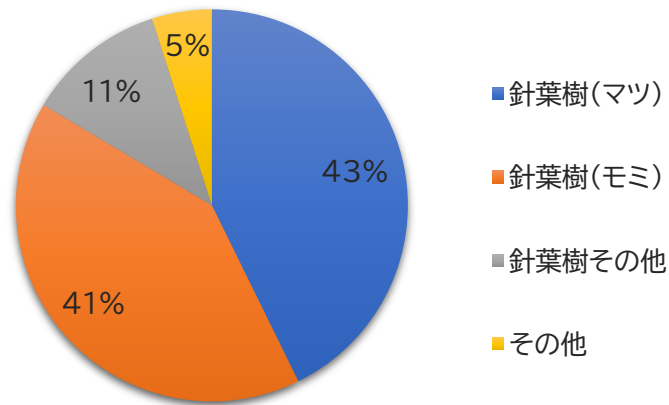
資料:ITC calculations based on UN COMTRADE and ITC statistics.より作成



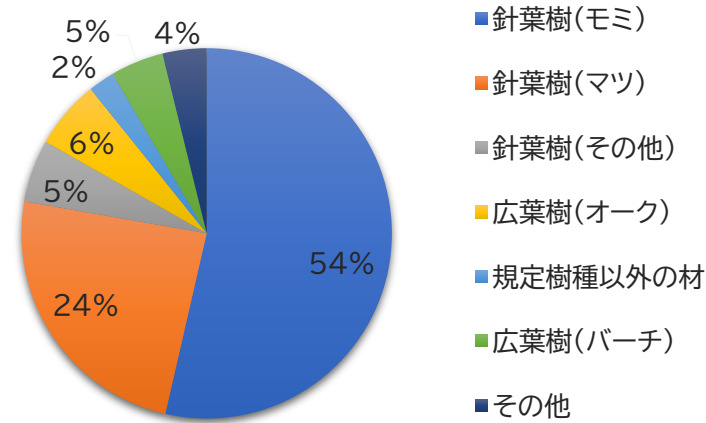
# 製材輸出の減少は、EUや日本に影響

- ロシアの製材の輸出品目樹種は、マツやモミの針葉樹が中心。また、EUの製材の輸出品目樹種も同様である。
- 仮に、EUでロシア材が調達不能となった場合は、樹種に違いがないことからEU域内の生産拡大による代替可能性がある。EUはロシアから21年に462万 $\text{m}^3$ を輸入。EUの製材生産量(20年11,269万 $\text{m}^3$ (FAOstat))の4%にあたる。
- 日本は、ロシアから21年に80万 $\text{m}^3$ 、EUから215万 $\text{m}^3$ の製材を輸入。ロシアが日本への製材輸出を禁止にした場合、日本は、ロシアからEUへと調達先を切り替えることが予想される。
  - ただし、日本およびEUにおける製材品の需要動向やEUの生産余力次第で切り替えの難易度は容易に変わる。
  - また、EU域内で製材品の需給がひっ迫しているため、当面、EUから日本への製材輸出量の減少と価格の高騰が懸念される。

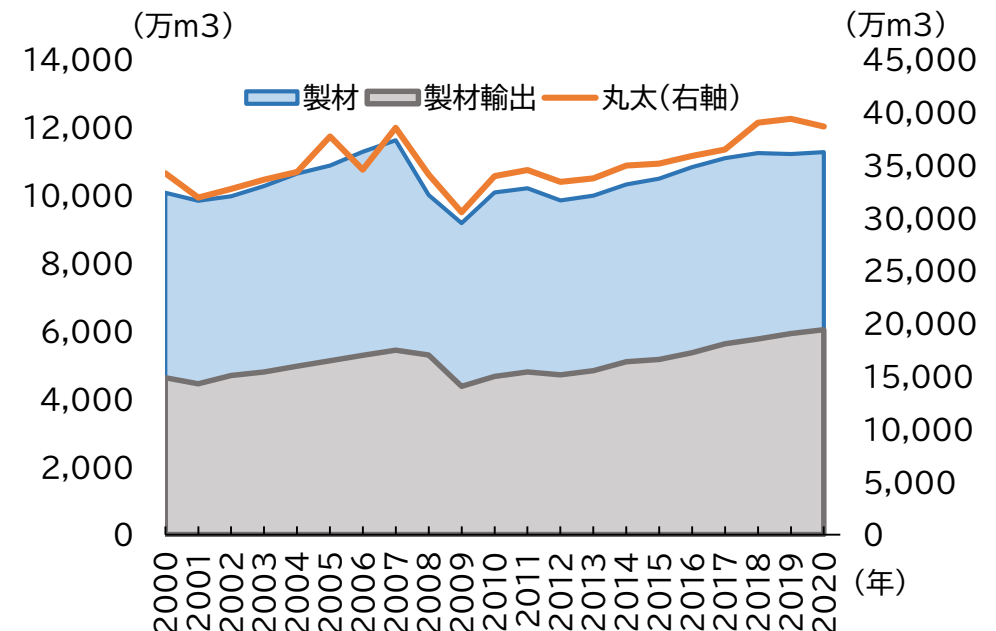
ロシアの製材輸出量の樹種別割合  
2021年



EUの製材輸出額の樹種別割合



EUの丸太、製材生産量と製材輸出量の推移



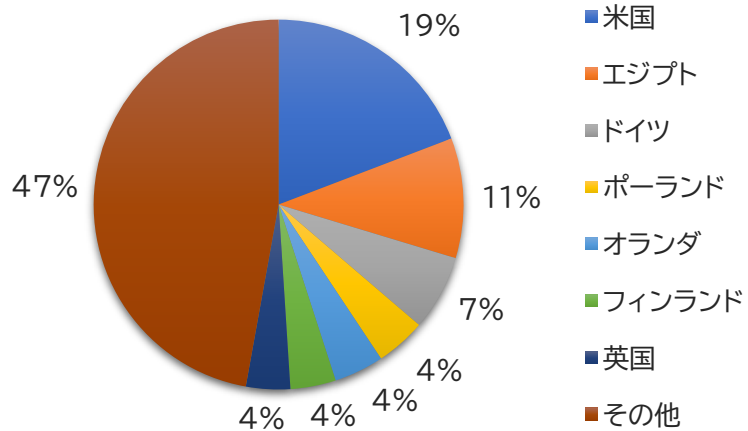
資料: ITC calculations based on UN COMTRADE and ITC statistics. FAO statより作成

# 合板の影響

# 合板輸出の減少は、米国やEUに影響

- ロシアの合板輸出量は、203万t。輸出先は、米国、エジプト、ドイツ、ポーランド、オランダの順に多い。
- 合板は、輸出禁止品目に含まれていないものの、経済制裁の影響のほか、国際認証を使用できなくなったロシアの合板が米国やEUでどれほど取り扱われるのか未知数。今後、輸出禁止品目に含まれる可能性も残る。非友好国である米国やEU(ドイツ、ポーランド等)で、合板製品の供給不足という形で影響が出るものと予想される。
- ロシアの輸出用合板は、94%が板厚6mm以下(外層広葉樹)である。同様の製品は、中国とロシアで世界の輸出の8割を占めている。その影響度合いは、中国の生産余力がどれほどあるかなどが関係する。

ロシアの合板輸出量の国別割合  
2021年

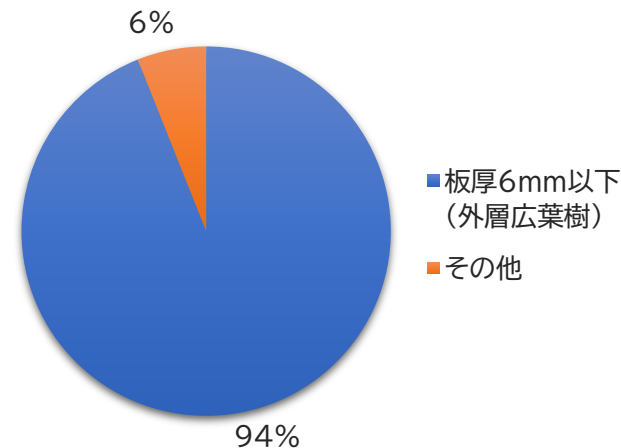


ロシアの合板輸出量  
2021年

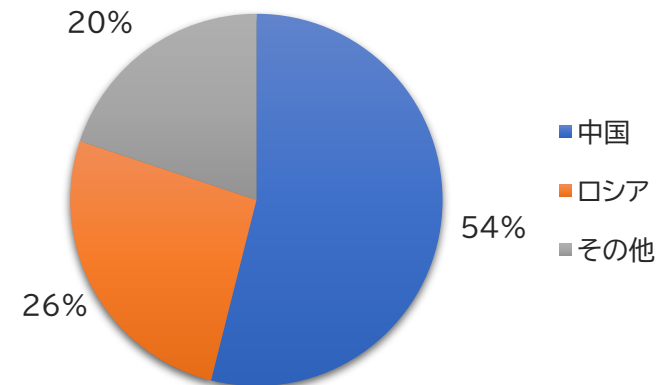
単位: 万t

米国	39
エジプト	21
ドイツ	13
ポーランド	9
オランダ	9
フィンランド	8
英国	8
その他	96
合計	203

ロシアの輸出合板の種類別割合  
2021年



世界の板厚6mm以下  
(外層広葉樹:441233)  
の輸出国別割合 2021年



資料: ITC calculations based on UN COMTRADE and ITC statistics.より作成

## 小括：ロシア材禁輸は、フィンランドのエネルギー利用、パルプ生産に影響

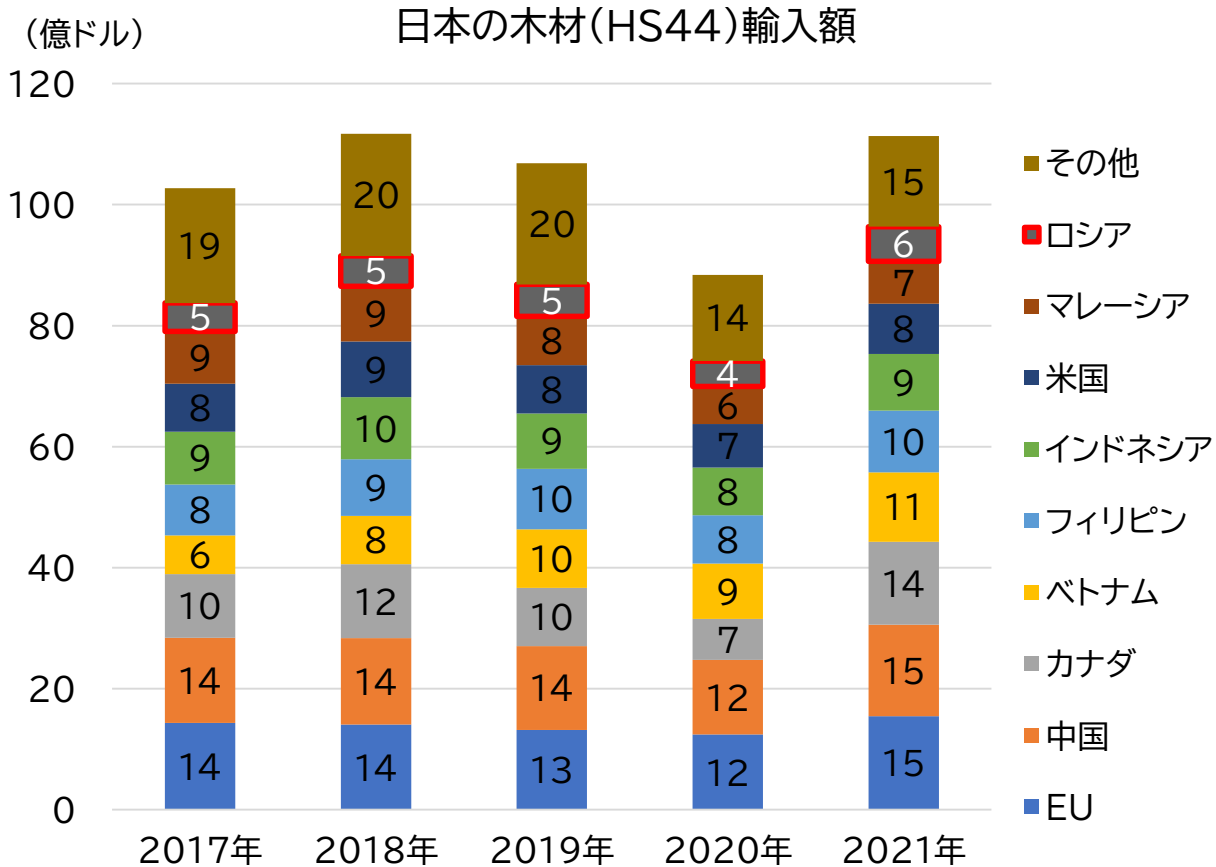
- ロシアは、世界第4位の木材輸出大国である。輸出禁止対象のチップは、ロシアの燃料材等の輸出量の9割がEU向け。そのうちの56%をフィンランドが占める。なお、ベラルーシやウクライナの燃料材等の輸出量の減少はEU加盟の隣国に主に影響。
- 輸出禁止対象の丸太は、中国向けが5割弱。フィンランド向けが4割強である。フィンランドは、パルプ用材として広葉樹丸太の多くをロシアから輸入しており、生産への影響が予想される。
- フィンランドの国産材率は86%と高い。今後は、ロシアからの輸入量の減少を国産材で補えるかがカギ。
- 製材については、ロシアの輸出禁止対象ではないものの、FSCやPEFCなどの国際認証機関がロシアやベラルーシの木材を「紛争木材」に分類。国際認証を使用できなくなった両国の製品を、今後EU諸国が取り扱うかどうかは不透明。
- ロシアの製材輸出は、中国向けが過半であるもののEU(英国含む)(21年462万m<sup>3</sup>)へも輸出。EUは、域内における生産拡大でロシア材の代替可能性があるものの、EUからその他海外への輸出余力が乏しくなることが予想される。先行きは、EUから日本への製材輸出量の減少と価格の高騰が懸念される。

# Ⅲ 日本編 木材輸入の概要

ロシアによる木材禁輸措置等で、製品の不足や価格上昇が見込まれる需要部門について概観する。

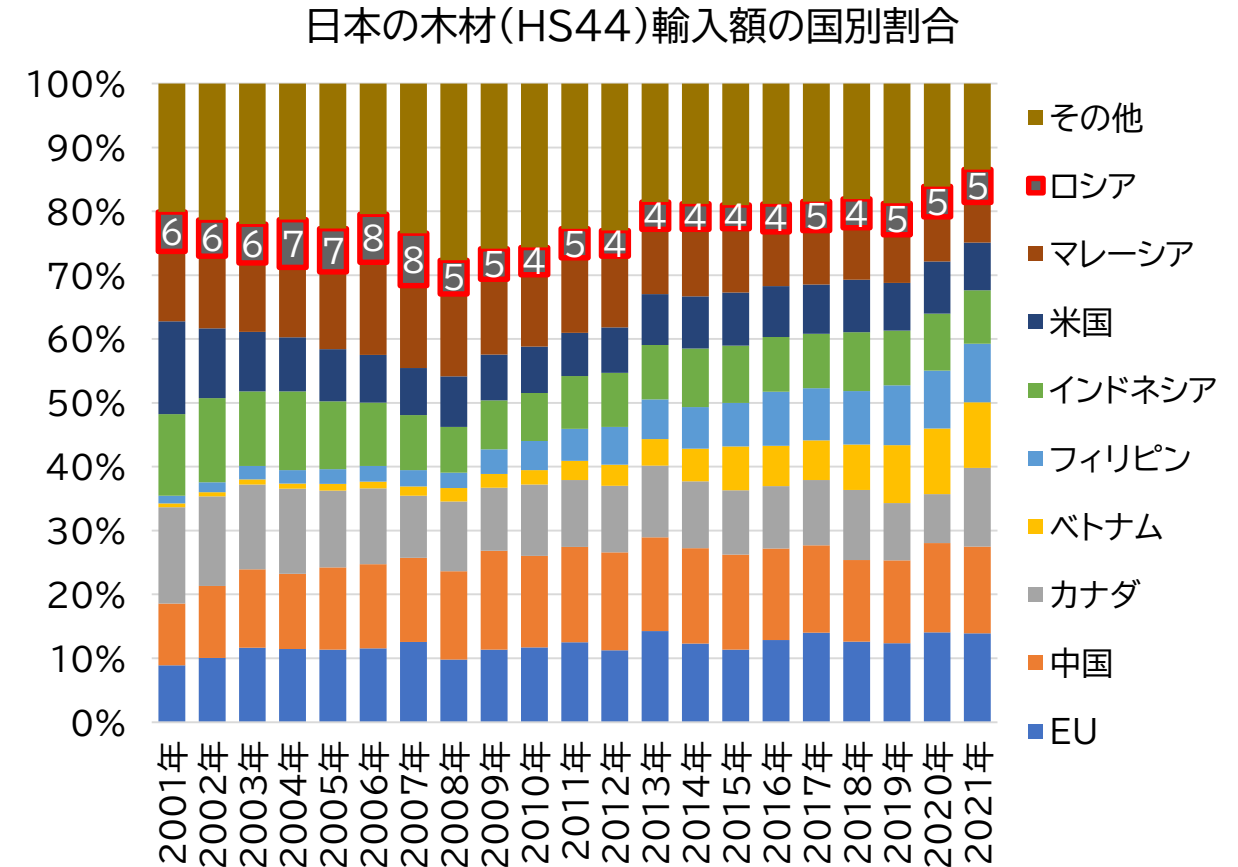
# 日本は主な木材・木製品を欧州、北米、東南アジアから輸入している

- 日本の木材輸入額(輸出入統計品目番号=HSコードで44類)は、近年100億ドル(≒1兆円前後)で推移。
- 日本の木材輸入額に占めるロシアの割合は5%前後。多くを欧州、北米、東南アジアから輸入している。



資料: ITC calculations based on Japanese Ministry of Finance

注: 表示した年全てにおいて、英国は含まれない。

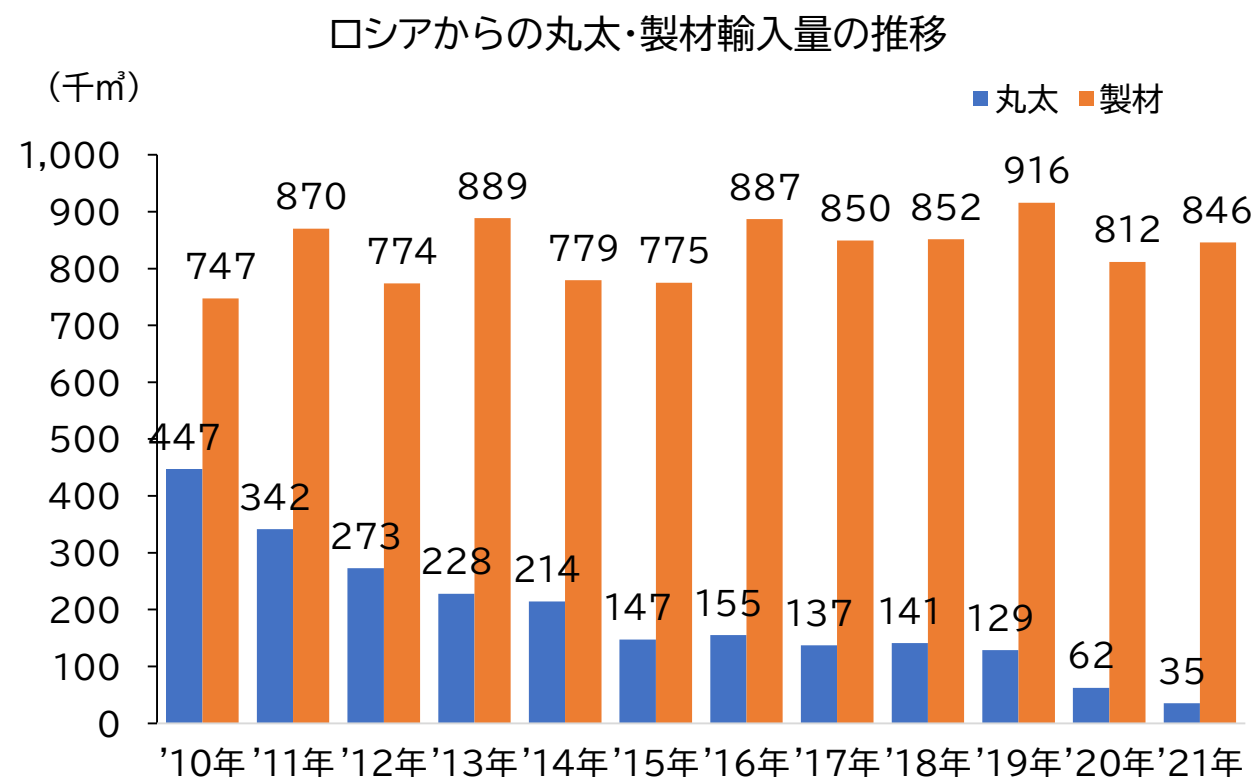
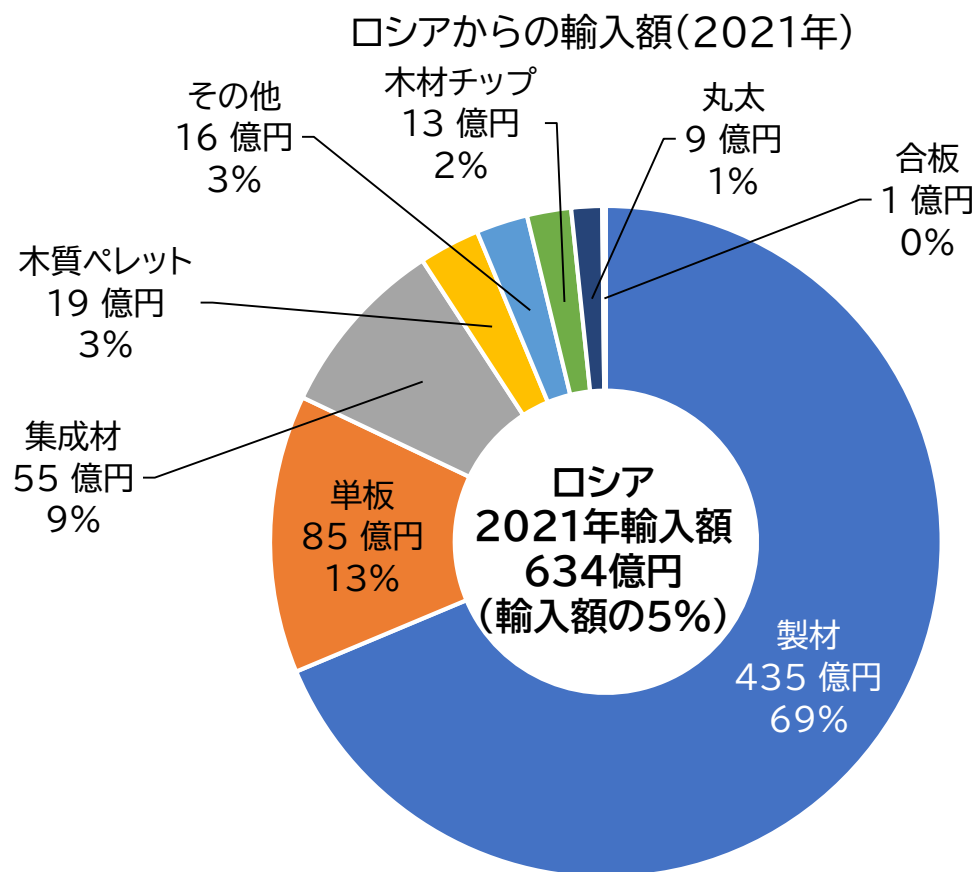


資料: ITC calculations based on Japanese Ministry of Finance

注: 表示した年全てにおいて、英国は含まれない。

# 日本はロシアから製材、単板、集成材を中心に輸入

- 日本は、ロシアから主に製材、単板、集成材を輸入。これらが輸入額に占める割合は8割超。
- 2007年以降、ロシア政府が決定した丸太の輸出関税導入(実際に導入されたのは2010年代)以降、丸太輸入量は減少の一途。一方、製材品は一定量を毎年輸入。



(資料)財務省「貿易統計」より作成

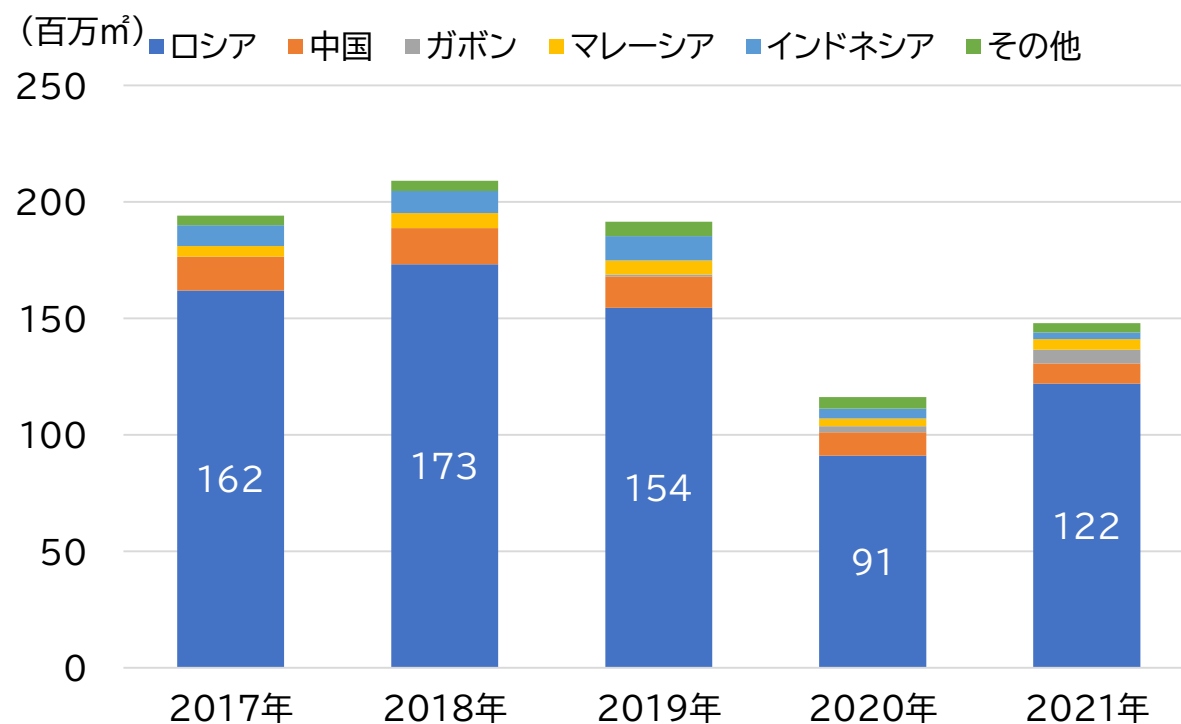
注:丸太はHS4403、製材はHS4407の合計。

(資料)財務省「貿易統計」、林野庁「ロシアによる「非友好国」に対する一部木材輸出禁止について」<https://www.rinya.maff.go.jp/j/boutai/attach/pdf/boueiki-4.pdf> を参考に作成

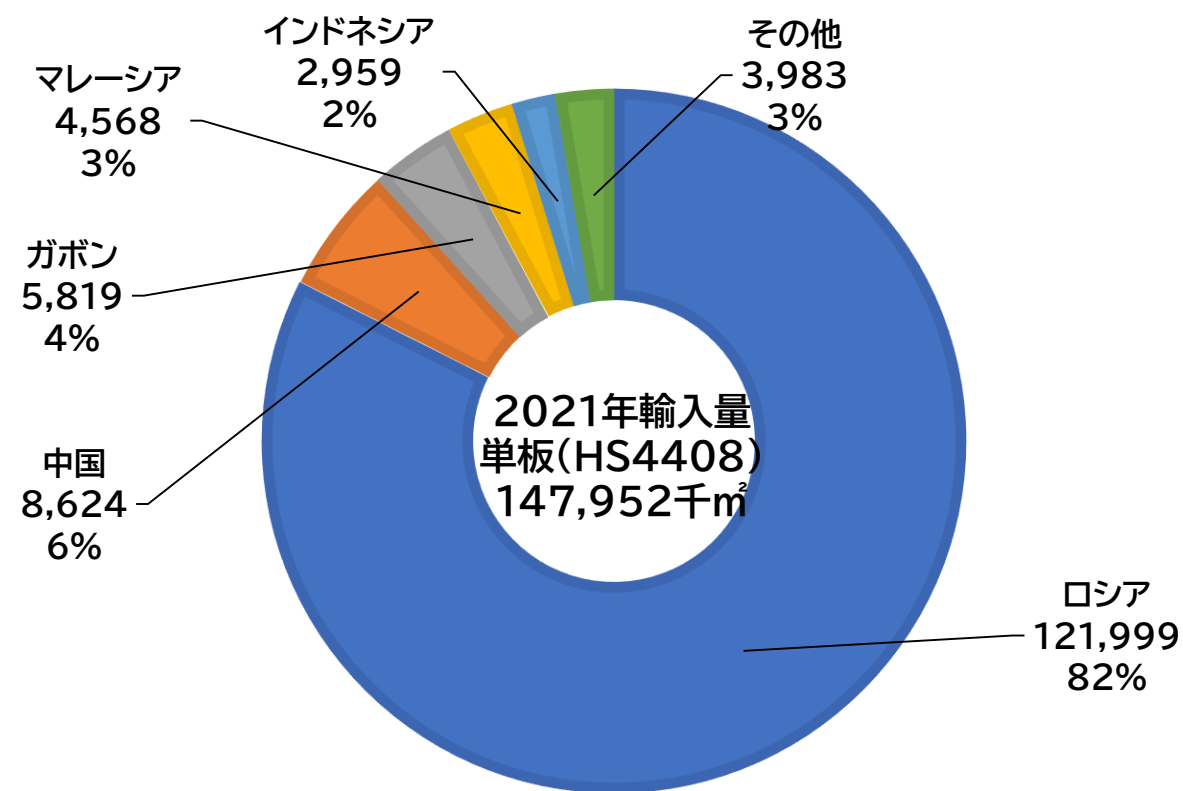
# 単板輸入量の8割がロシア、禁輸措置で国内の合板生産に一定の影響が見込まれる

- 日本は、輸入単板の8割をロシアに依存。
- 単板は、ロシア・カラマツが多くを占める。合板の表裏面やLVLの強度確保のために一定の需要あり。
- (ロシア禁輸以外の特徴的な動き: 中央アフリカのガボンから広葉樹単板の輸入が21年に急増。)

単板(HS4408)の輸入先別数量



Sources: ITC calculations based on Japanese Ministry of Finance

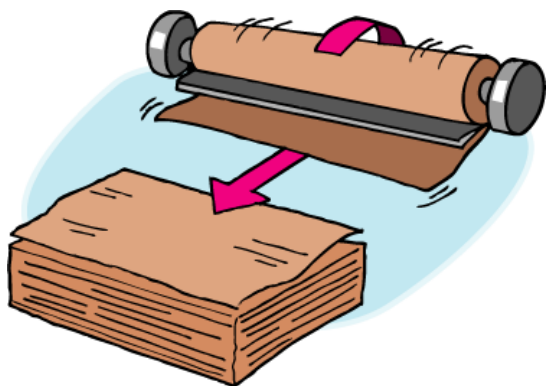


Sources: ITC calculations based on Japanese Ministry of Finance



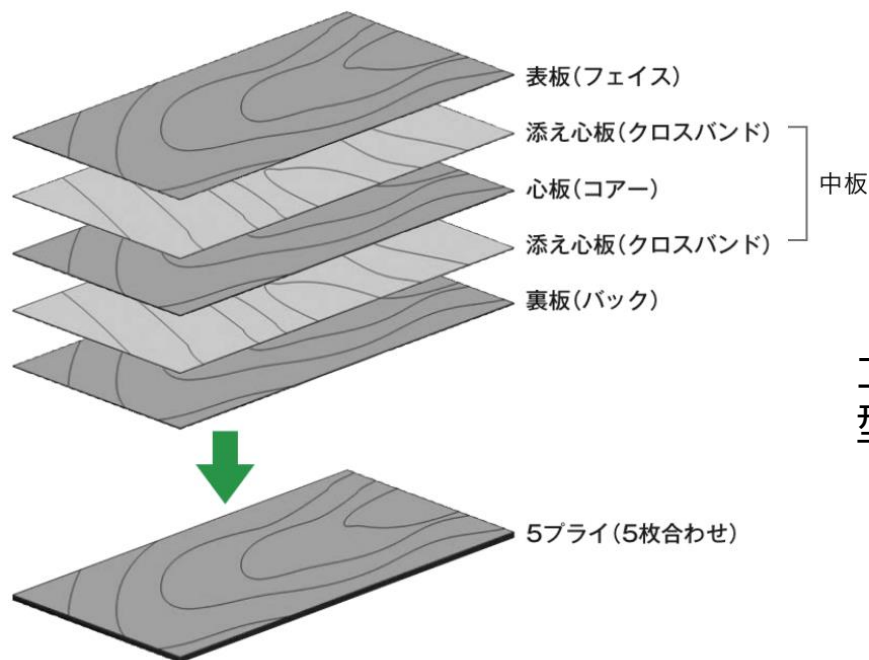
- 原木をロータリーレースで「かつらむき」することにより、単板が得られる。
- 単板の木目を直交させて複数枚接着して合板となる。同じ木目方向で接着すると、単板積層材(LVL)となる。
- LVL、構造用合板、コンクリート用型枠合板がロシア産単板の主な需要先。

## ↓ロータリーレースと単板



(資料)秋田プライウッド株式会社Web  
<https://www.aplywood.co.jp/kids/koutei04.html>  
より転載

## 合板の構成 (5プライ合板の場合)



(資料)日本合板工業組合連合会Web  
<https://www.jpma.jp/product/index.html> より転載

## 構造用合板 の用途



(資料)日新Web  
<https://www.nisshin.gr.jp/plywood/> より転載

## 治山ダム工事 (A森林管理局)

## コンクリート用 型枠合板の用途



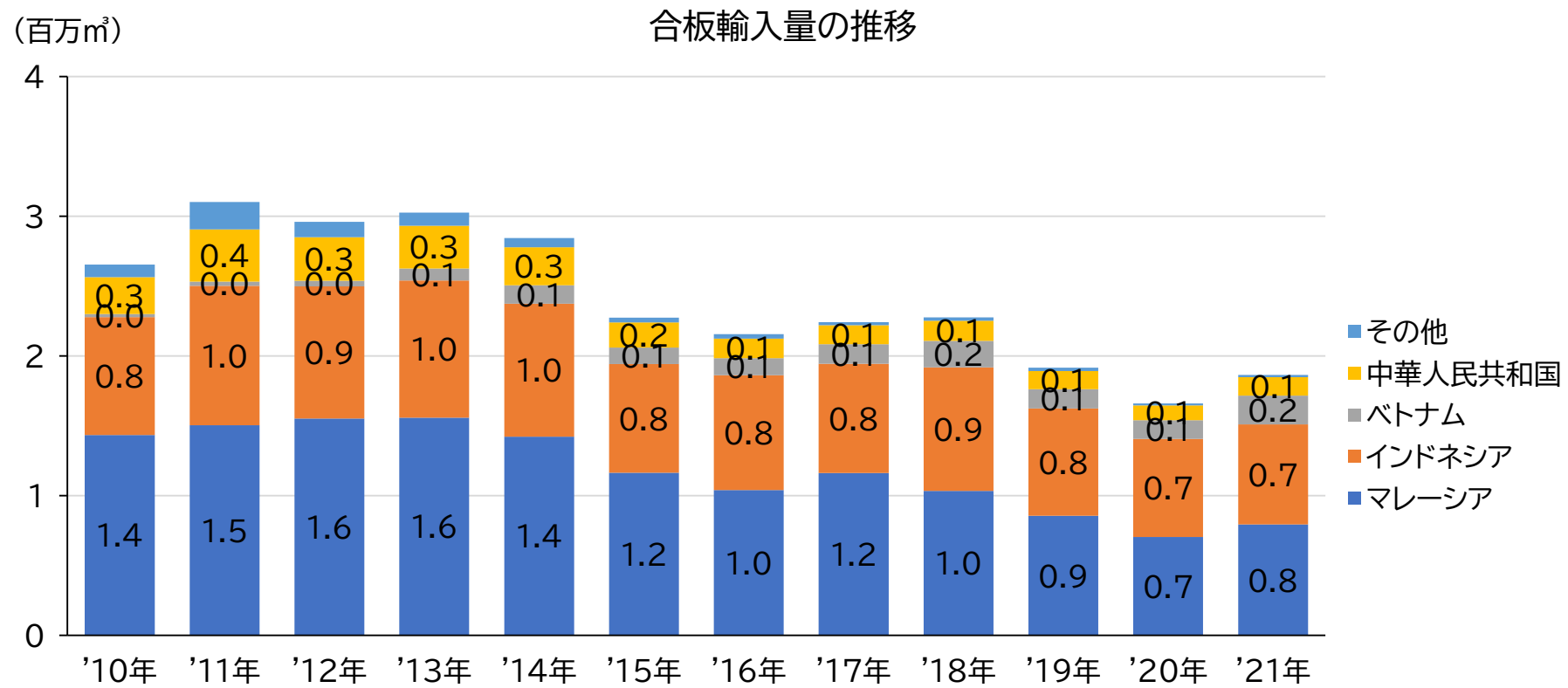
(資料)日本合板工業組合連合会「間伐材等国産材を活用したコンクリート型枠用合板の活用パンフレット」より転載

# 国内合板をめぐる現状認識

第3次ウッドショックの「第2波」とも言うべき現状について整理

# 合板の輸入量は長期的に見ると減少傾向

- 東南アジアは、1990年代に合板向け原木から製品輸出に転換し、現在に至る。
- マレーシア、インドネシアでは環境規制強化やコロナ禍によるロックダウン(工場稼働停止)などにより、合板製品の輸出量が減少。

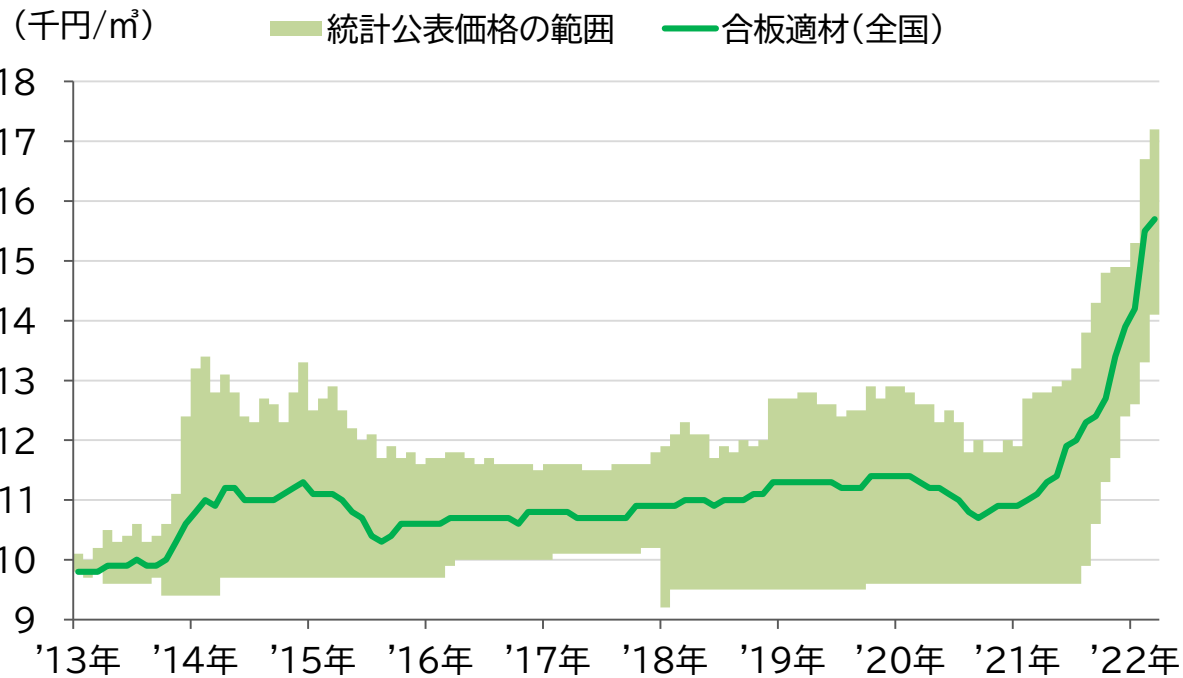


(資料)財務省「貿易統計」より作成

# 合板向け丸太、合板価格は、ロシアによるウクライナ侵攻以前から上昇

- 近年、合板製品の輸入量が落ち込み、国産合板への需要が高まってきた。
- 第3次ウッドショックによる国産材需要の高まりで丸太価格は全体的に上昇し、合板向けも上昇。
- 接着剤の価格上昇も重なり、合板価格は上昇を継続。

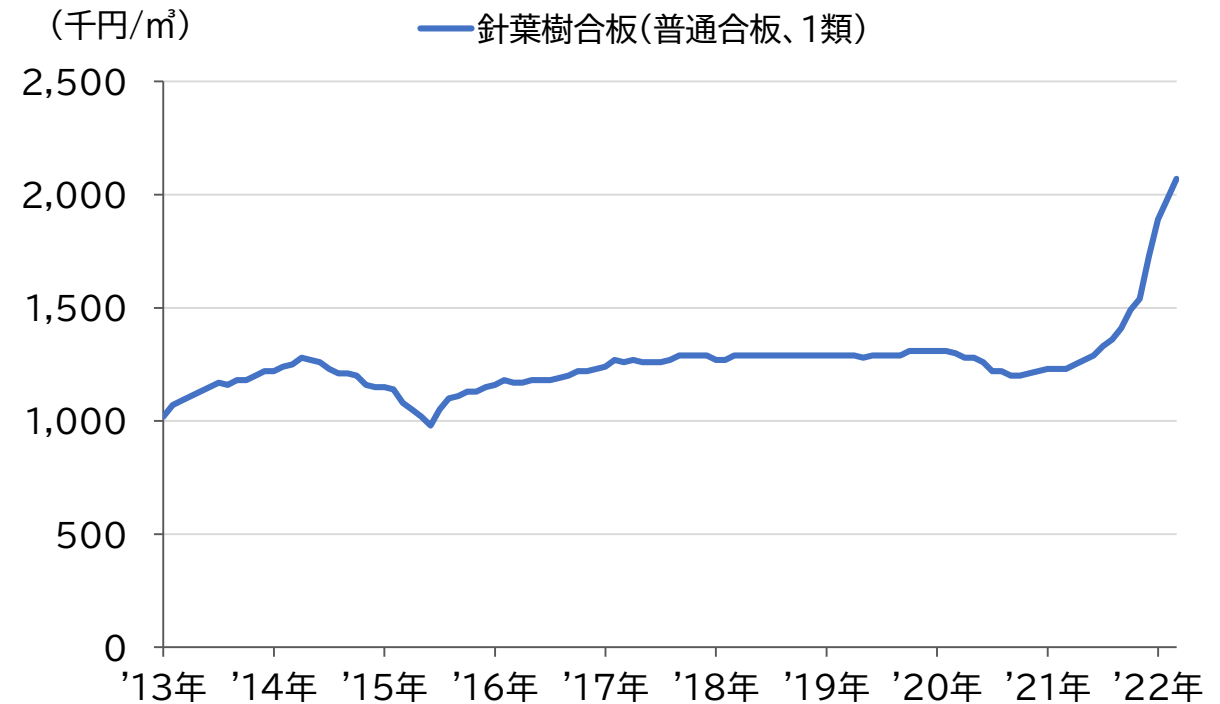
合板向け丸太価格の推移



(資料)農林水産省「木材需給報告書」、同「木材価格統計」より作成

注:合板適材は、すぎ丸太、径18.0cm上。岩手県、宮城県、秋田県、石川県、京都府、鳥取県、島根県、熊本県のうち、公表された価格の上下限を図示した。

針葉樹合板(普通合板、1類)価格の推移

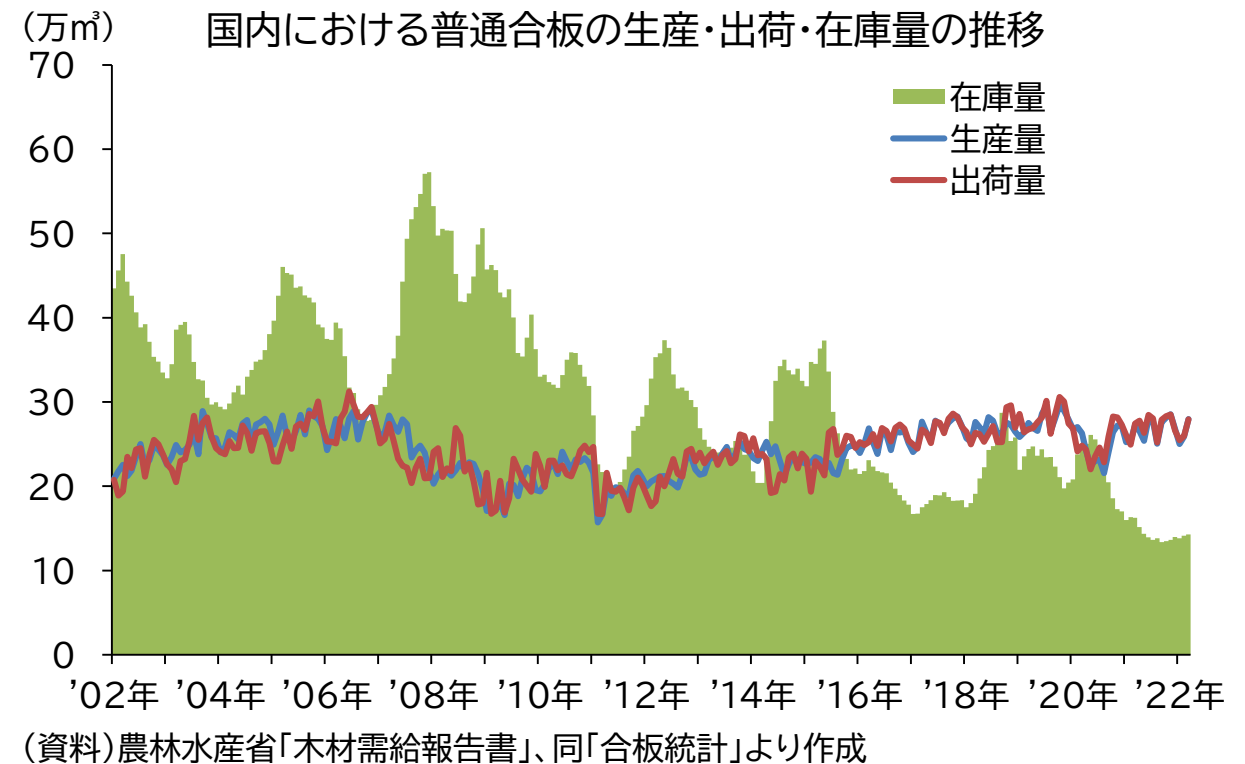
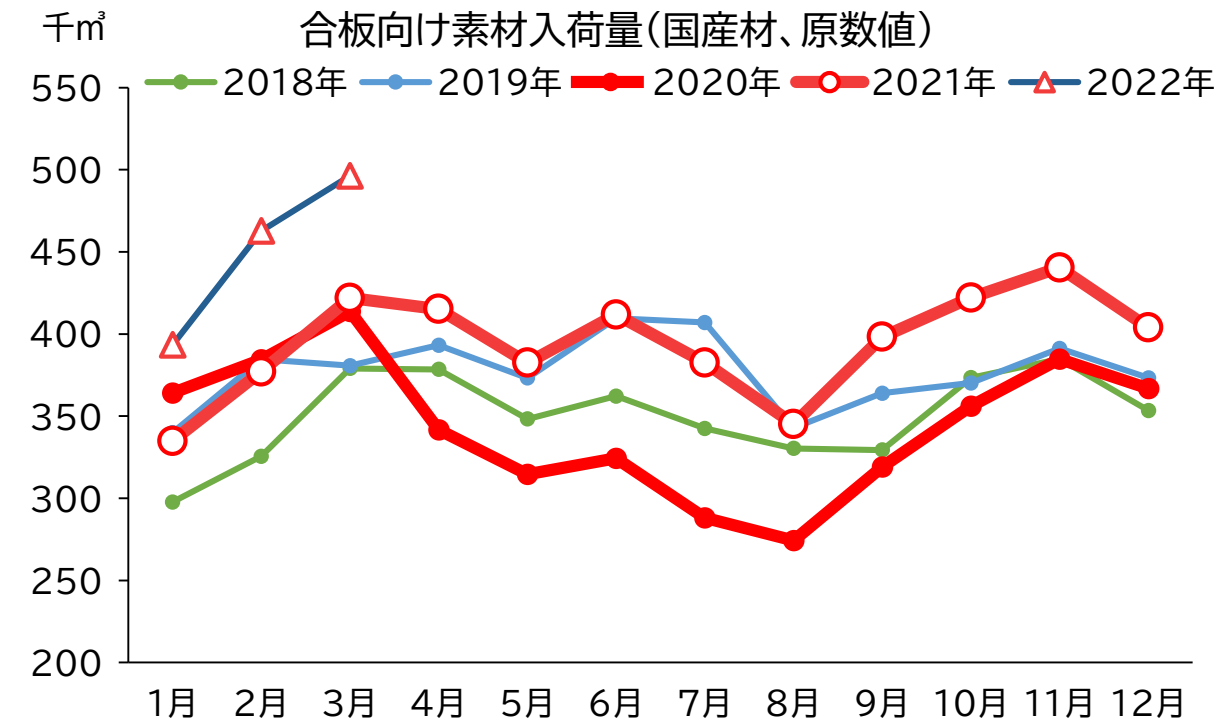


(資料)農林水産省「木材需給報告書」、同「木材価格統計」より作成

注:針葉樹合板は、12mm厚、910×1,820mm。

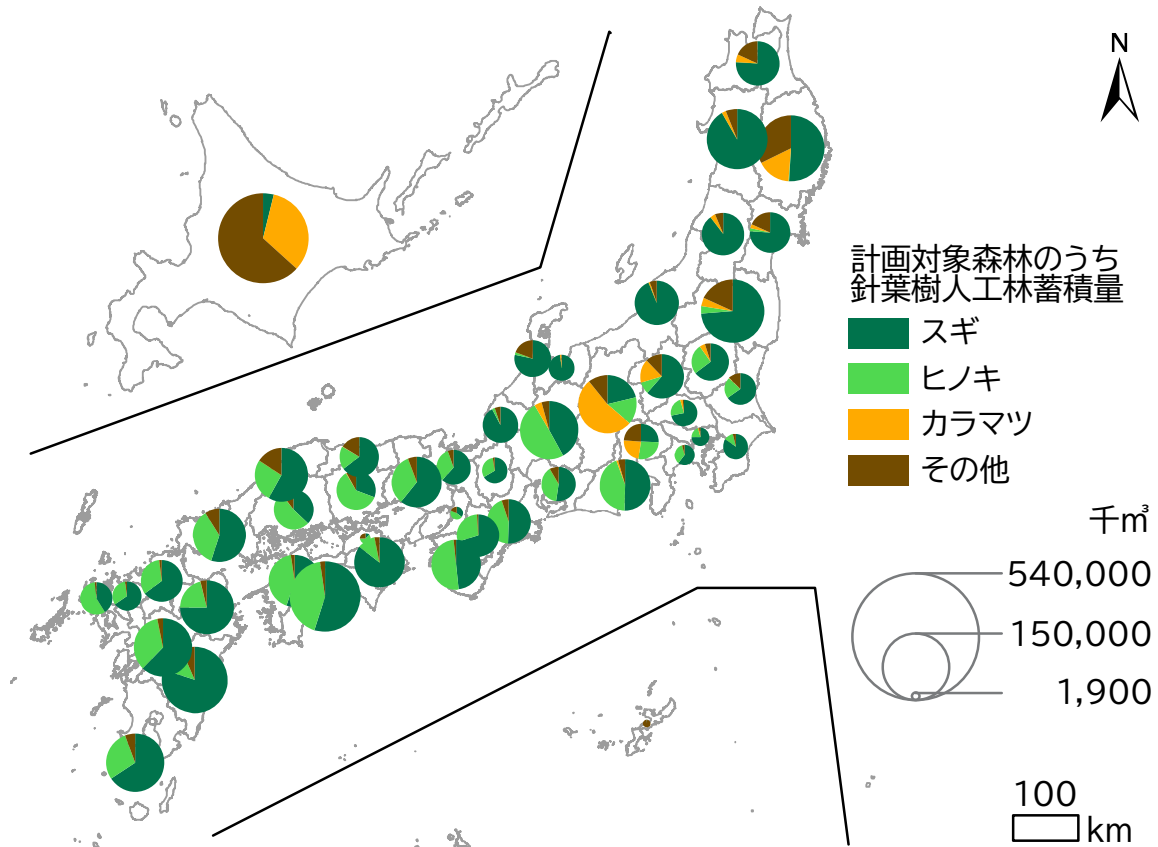
# 過去最大の素材入荷が続くも、輸入不足で国内供給を上回る需要

- 国内の合板向け素材生産量は過去最大の規模で推移。合板の生産・出荷量はコロナ禍前まで概ね回復。
- ただし、2020年以降、在庫量が0.5ヶ月（生産量比）で推移。即納できず、配送遅延が常態化。
  - 国内合板最大手よれば、「合板を増産したくても、**国産原木丸太の品薄と人手不足で工場の稼働時間を上積みできず、生産能力には限界がある。環境破壊の問題などを背景にした東南アジアの輸出規制でラワン合板から国産針葉樹合板への切り替えが進んでいることや、国産合板の用途や品種が増えていることも相まって、合板の供給不足は深刻**」（日経2022/3/18）
- 当面、港や倉庫にある輸入単板や製品在庫で供給を確保も、夏以降、合板不足に拍車がかかる可能性、要注意。



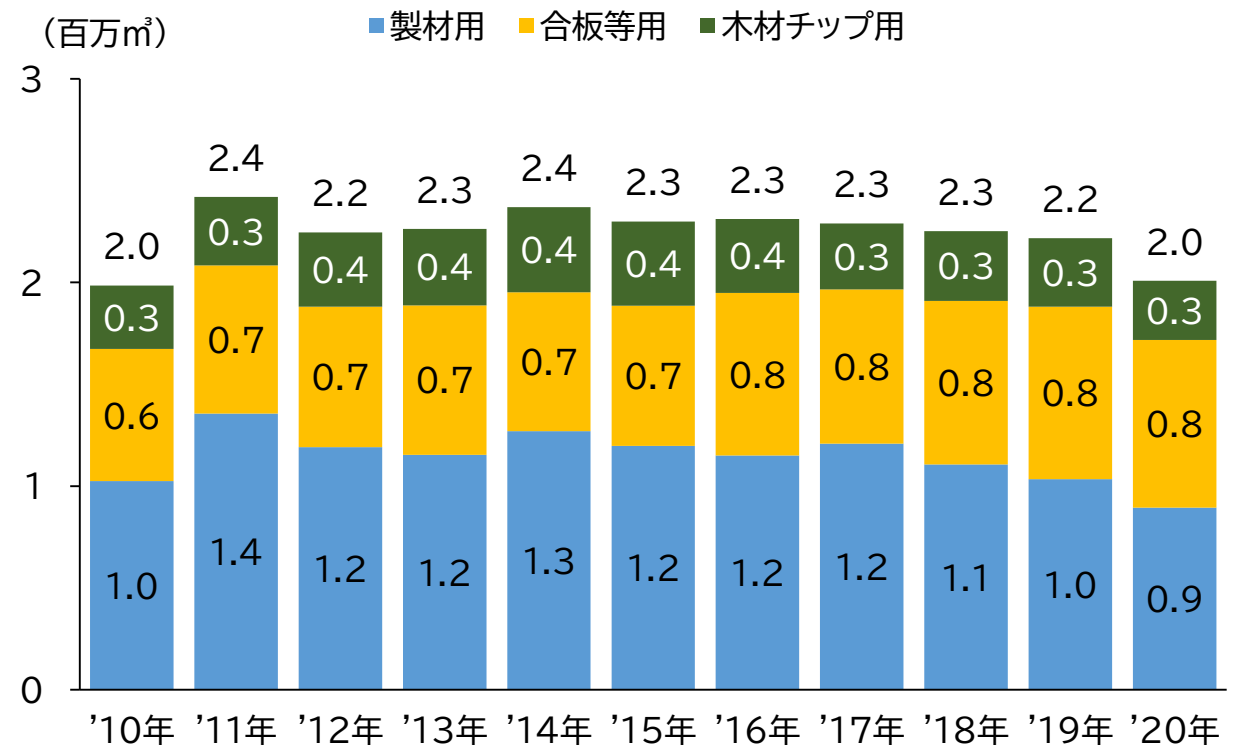
# ロシア産単板の代替品であるカラマツは、産地・蓄積量が限られる

- ロシア産単板は、東北や北陸、中国、関東などの合板工場で利用。国内合板最大手は、スギを中心に代替するとコメント。ただし、強度確保等の目的から、上記地域でカラマツに対する需要が一定程度高まる可能性。
  - ・ 国内の人工林カラマツ蓄積量は限られ、北海道、長野県、岩手県に偏在する。
  - ・ 国産カラマツの生産量は200万m<sup>3</sup>前後で推移。製材向けが減少し、合板向けが緩やかに増加。
- ロシアからの単板禁輸による単板減少分÷40万m<sup>3</sup>(丸太換算値、61.8%)は、足下の増産体制下では高いハードル。



(資料)林野庁「森林資源の現況(平成29年3月31日現在)」、ESRIジャパンデータより作成

需要先別カラマツ素材生産量の推移



(資料)農林水産省「木材需給報告書」

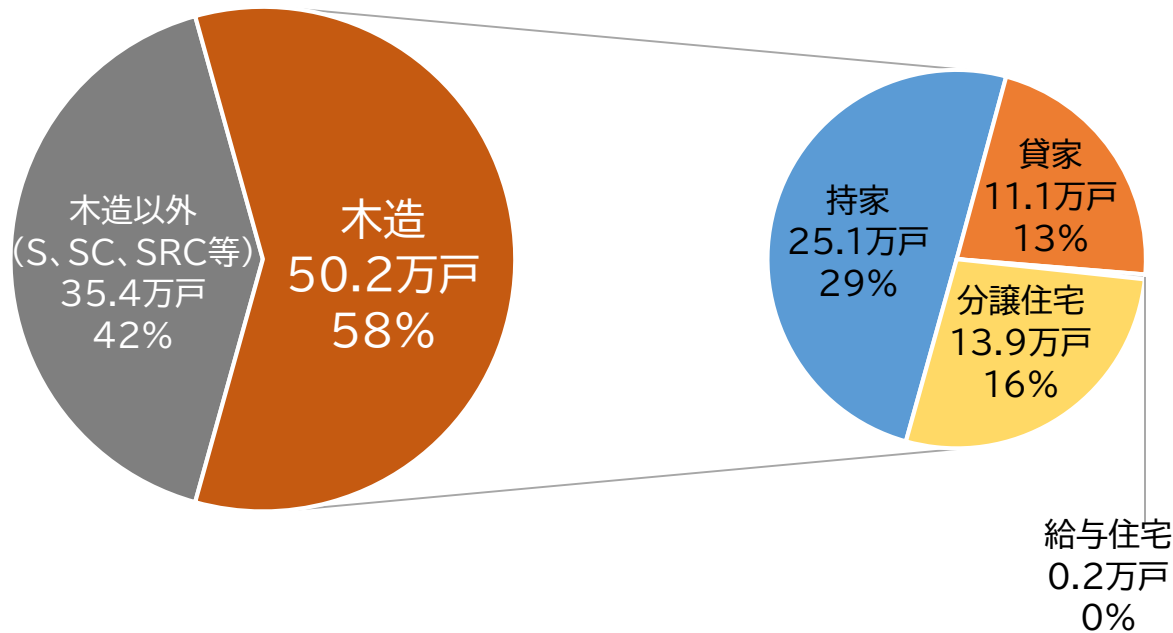
# 合板需要先である木造住宅を 取り巻く現状



# 国内の木造住宅需要は、注文住宅で急減、分譲住宅で高水準を維持

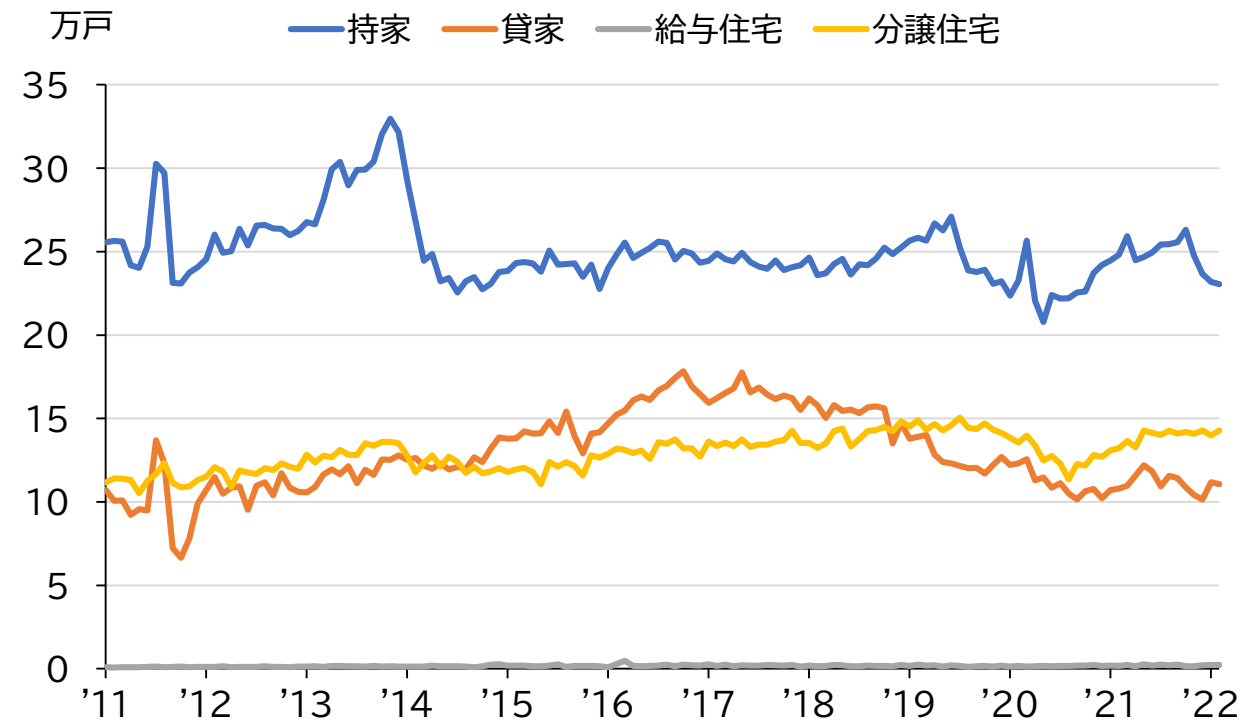
- 国内住宅の6割弱が木造。その内訳は、注文系(持家)、アパート(貸家)、分譲住宅(建売等)に分けられる。
- 2021年夏頃にかけて、木造の持家、貸家、分譲住宅で需要回復が見られたものの、足下では、持家着工戸数が急減。
- 一方で、木造の分譲住宅はコロナ禍以前に匹敵する着工戸数を維持。木造貸家は年率換算10万戸前半を維持。

2021年の住宅着工戸数(85.6万戸)の内訳



(資料)国土交通省「住宅着工統計」より作成

木造住宅の着工戸数(季節調整値、年率換算)



(資料)国土交通省「住宅着工統計」を基に農中総研による季節調整(X-13-ARIMA-SEATS)より作成

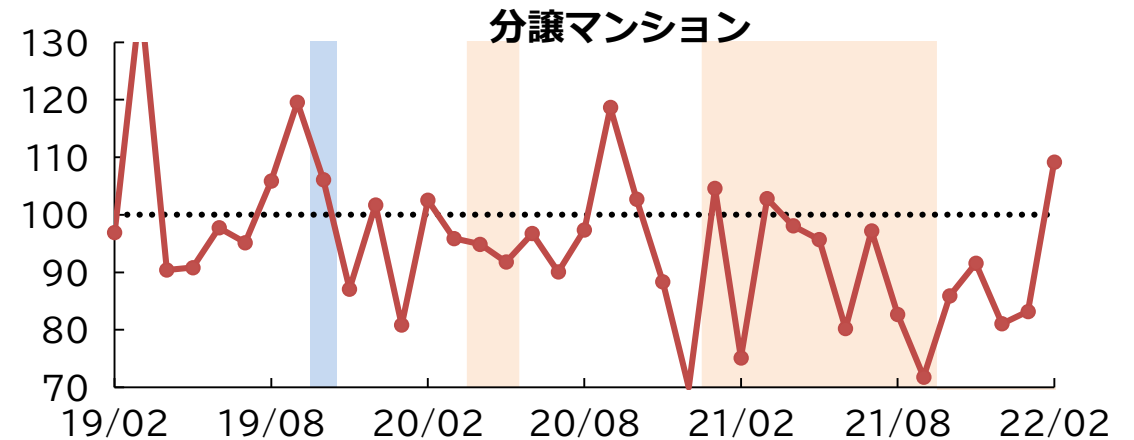
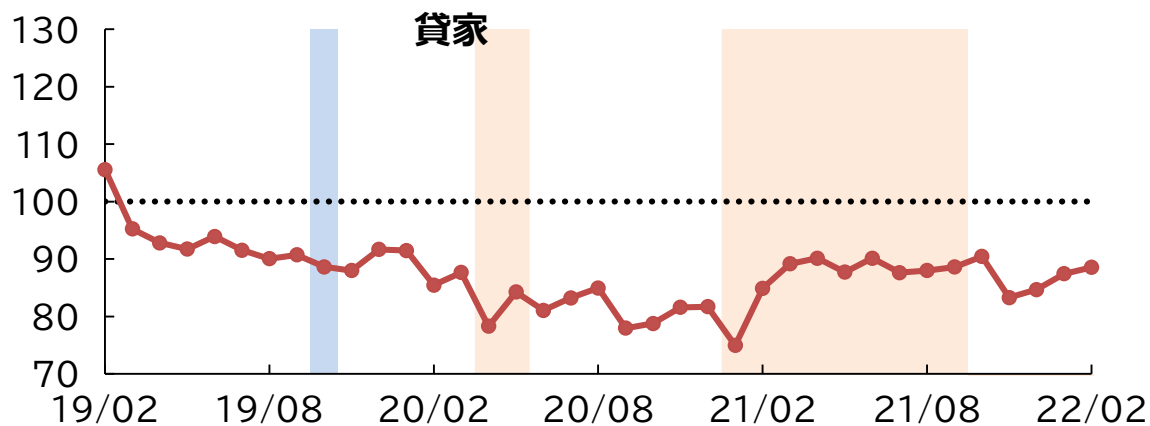
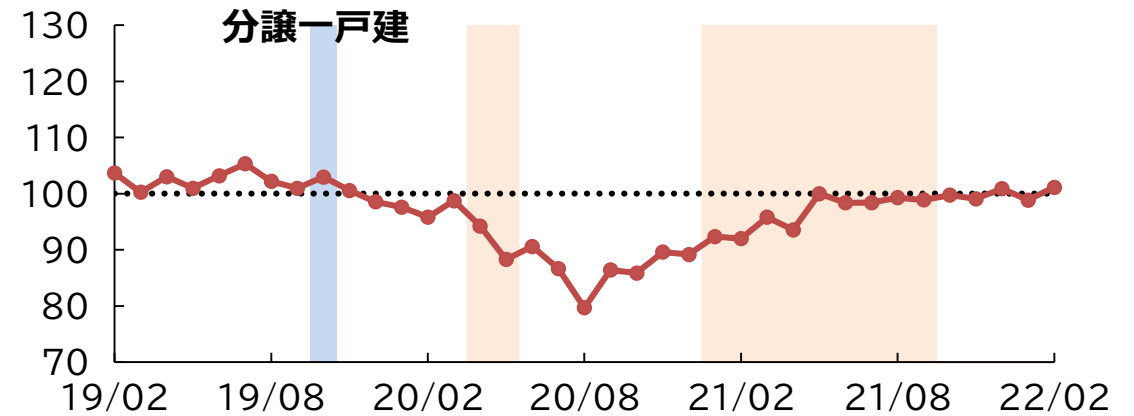
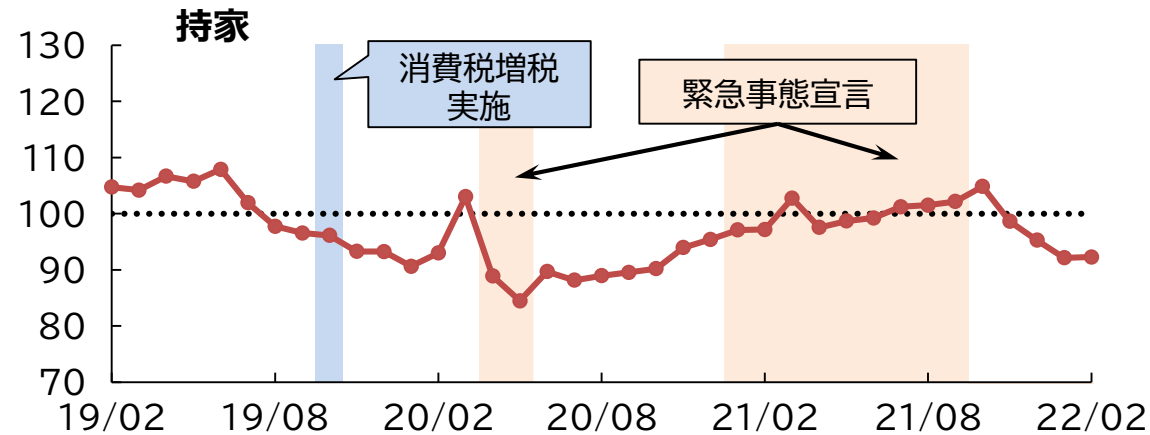


# (参考) 住宅着工戸数：持家は減り、分譲一戸建は回復しコロナ禍前の水準を維持

32

- 全ての建て方で見ても、持家は21年夏以降、着工減少。分譲一戸建は、コロナ禍以前の着工水準を維持。
- 貸家はコロナ禍前に比べ1割程度少ない着工水準。分譲マンションは、着工水準が一定。

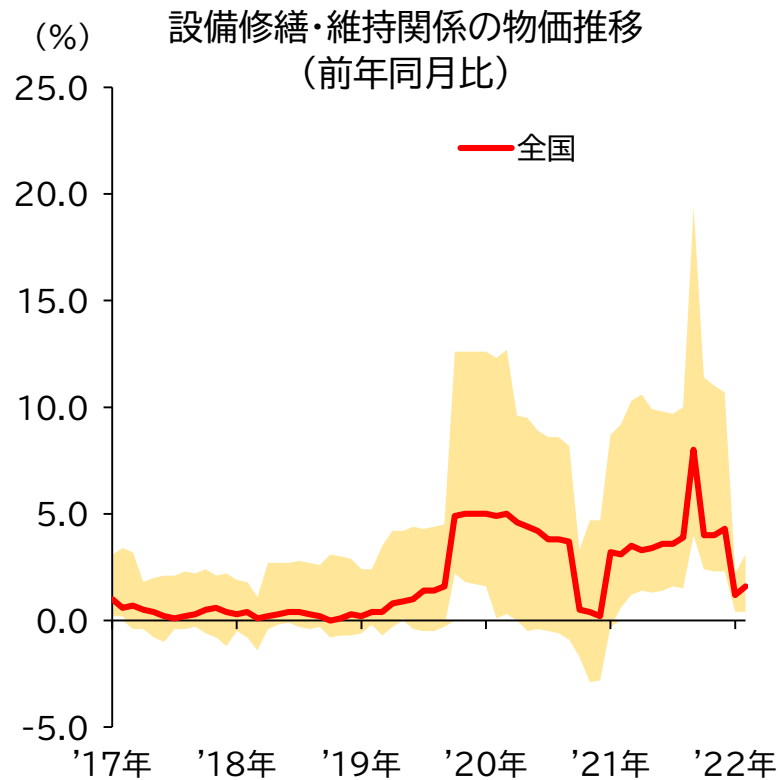
住宅着工戸数の推移(COVID-19感染拡大前の2年間=100)



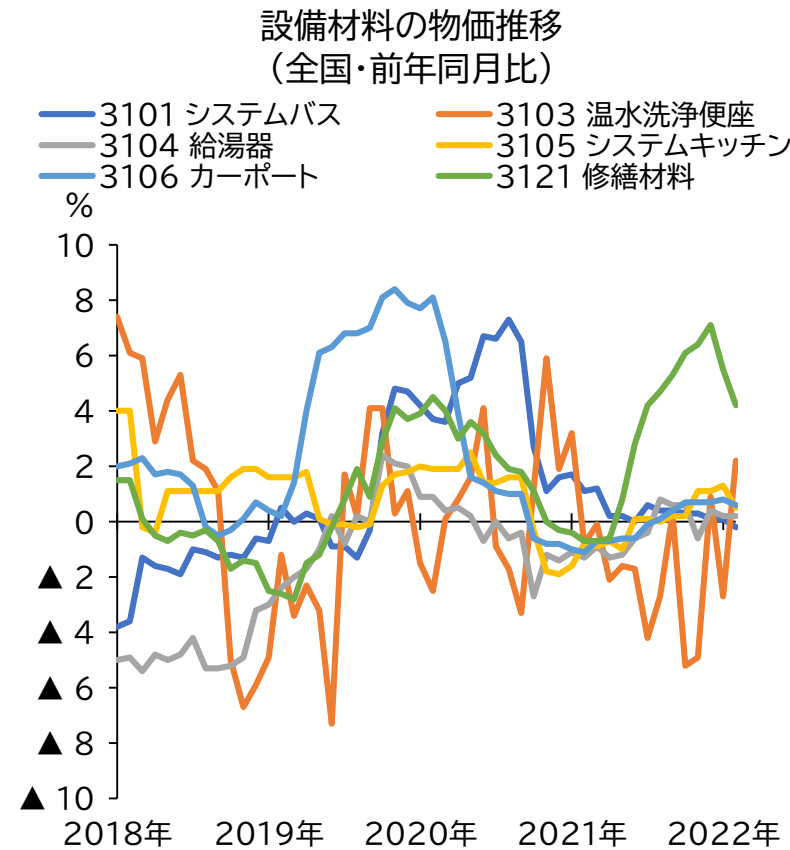
(資料)国土交通省「建築物着工統計」を基に農中総研による季節調整(X-13-ARIMA-SEATS)より作成  
(注)2018年1月～19年12月の季節調整値の平均をそれぞれ100として指数化した。

# 木材価格だけでなく住宅設備費や工事費も上昇、注文住宅の着工抑制要因に

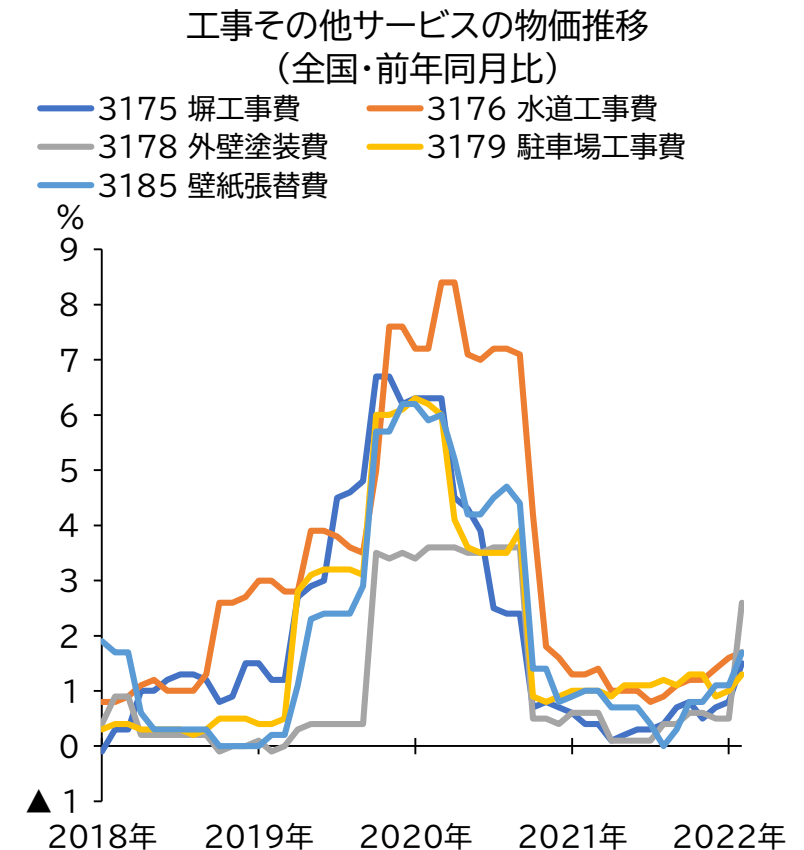
- 木材価格だけでなく、住宅設備や設備修繕維持関係の物価もコロナ禍による物流混乱や資材価格高騰で上昇。
- 注文住宅は、住宅価格が一段と高くなり着工減少。
- 分譲住宅は、住宅設備等を一括仕入れること等により安定して住宅供給が可能であり、着工継続。



(資料)総務省「消費者物価統計(2020年基準)」の  
「0051設備修繕・維持」より作成  
(注)シャドーは、全国10地域の値の範囲を示す。



(資料)総務省「消費者物価統計(2020年基準)」



(資料)総務省「消費者物価統計(2020年基準)」

## 小括：ロシア材禁輸による影響は限定的も、ウッドショック第2波へ

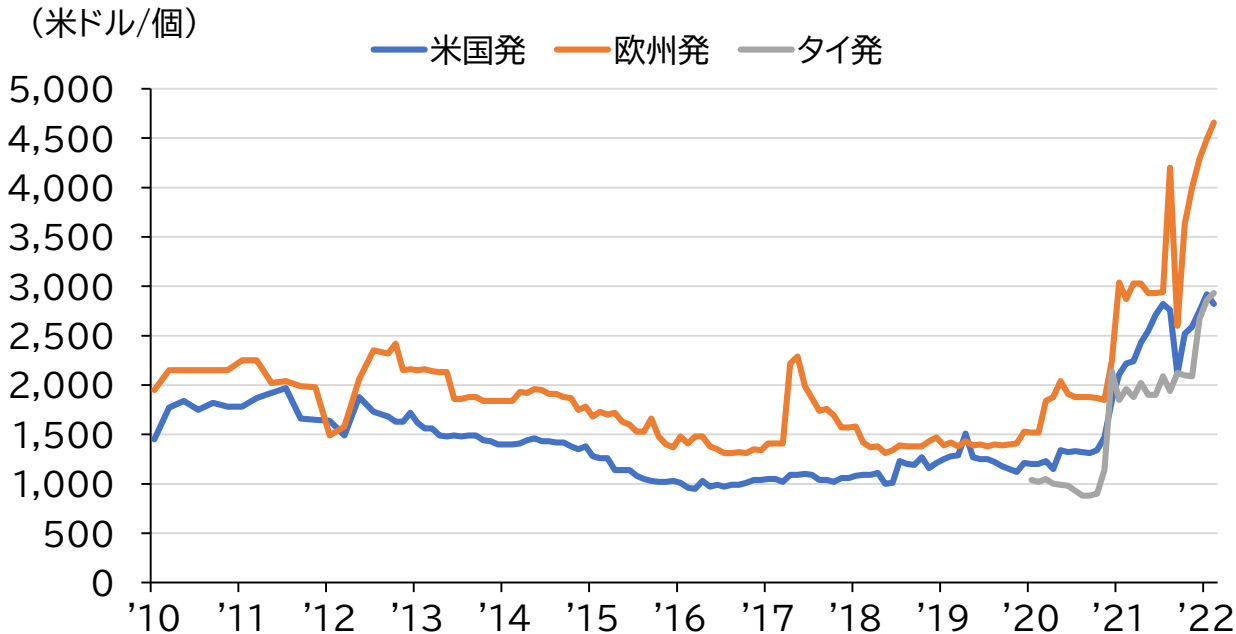
- ロシアからの木材輸入額は、木材輸入額全体の5%である。その7割を占める製材は、現時点で禁輸対象品ではないため、影響は限定的。
- 次に大きなシェアを占める単板は、国産材で代替が模索されているが、強度確保のために必要な国産カラマツは慢性的に需給が逼迫しており、その調達は容易ではない。
- ウッドショックによる価格の上昇、マレーシアの供給減少などにより、国内の合板向け丸太および合板価格は上昇傾向にあったが、単板の禁輸は、国産合板の製品価格を一段と上昇させる。→ウッドショック第2波ともいえるべき状況へ

# IV 今後の見通し・焦点

# 戦争長期化とコロナ禍による物流費上昇で国産材利用が一段と進む可能性

- ロシア材の供給について:日本の輸入量は限られるが、サプライチェーンを通じて、欧米からの製材品輸入に影響が及ぶ可能性。その結果、日本はロシアからの製材の輸入量を更に拡大させる可能性も残る。
- 日本国内の木材需給について:戦争長期化とコロナ禍による物流費上昇で輸入材の調達が一段と難しくなり、国産材の価格優位性が高まる。
- 調達安定性や国産材利用のスペックイン(国産材利用を前提とする設計)が進めば、国産材利用が一段と進む可能性もある。ただし、素材生産、製品製造、流通などのボトルネックを改善する必要あり。

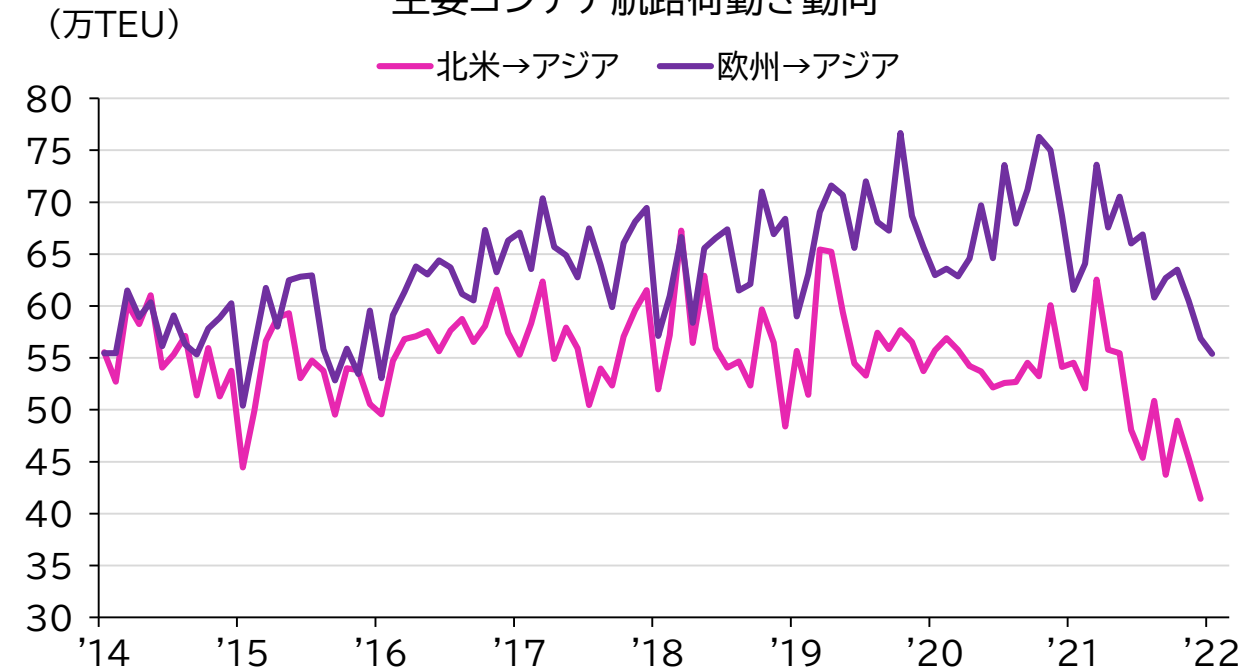
日本向けコンテナ運賃の推移



資料: 日本海事センター「主要航路コンテナ運賃動向」

(注)40ftコンテナ。「米国発」はLos Angeles発横浜着、「欧州発」はRotterdam発横浜着。「タイ発」は、Leam港発横浜着。原典は Drewry「Container Freight Rate Insight」。

主要コンテナ航路荷動き動向



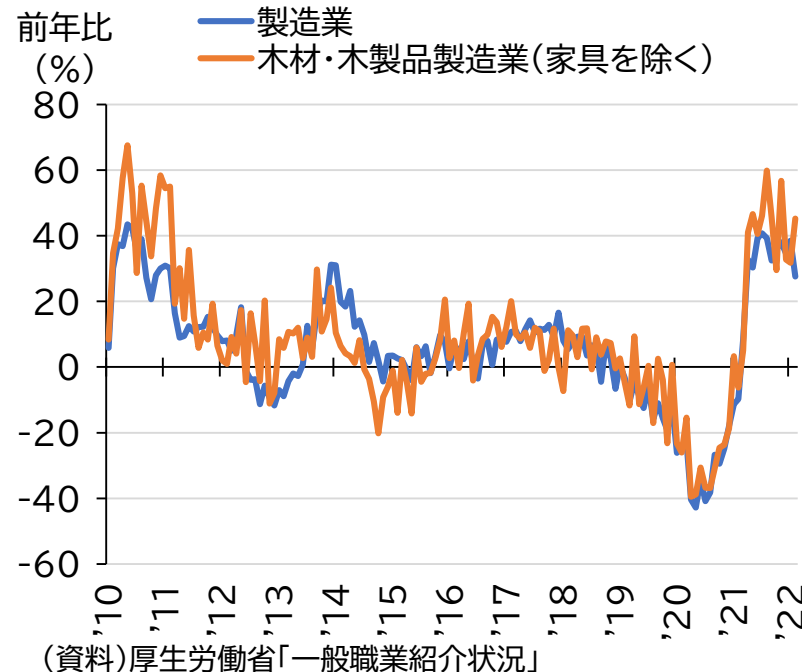
(資料)日本海事センター「主要コンテナ航路荷動き動向」より作成

注:TEU(Twenty-foot Equivalent Unit)とは、20フィートコンテナ換算単位のこと。

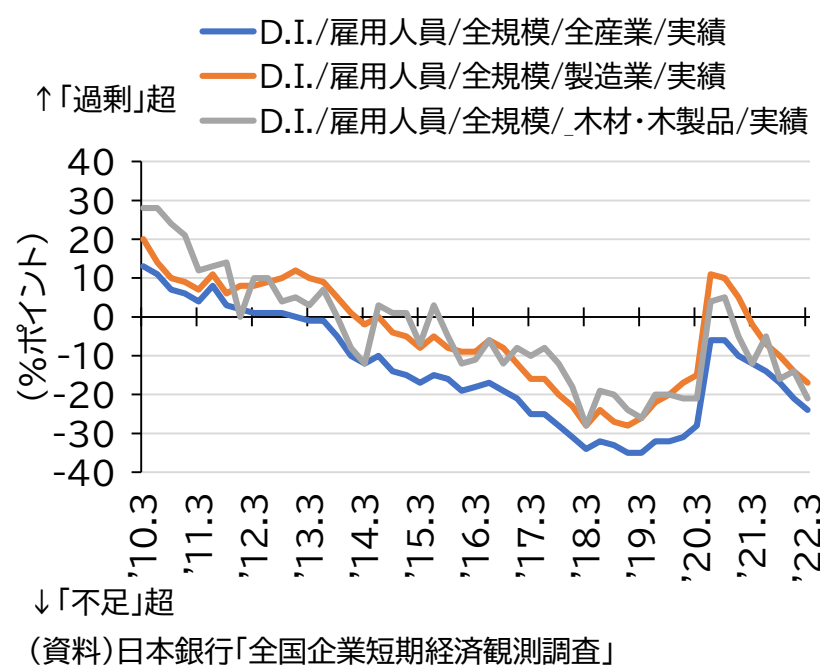
# 合板製品の輸入量は徐々に回復、国内での合板増産は短期的には難しい

- 足元は、コロナ禍の影響で合板の輸入量が不足しているが、長期的にみれば、マレーシアや中国からの輸入量は戻る可能性。また、ベトナムからの輸入量が拡大傾向にあり、総輸入量は徐々に回復する見込み。
- **国内の合板製造(供給)量の更なる拡大は、人手不足による工場稼働率上昇の限界、原木供給量の増加困難などにより、短期的には難しい状況。**
- 合板の需給逼迫は、持家住宅の着工下押し圧力に。合板は建築材だけでなく、コンクリート用型枠としても重用されているため、合板不足(需給逼迫)や価格の高騰は、国内の建築着工全体へ影響が及ぶ。輸入在庫が底をつき始める22年夏以降にかけて、ロシア材をめぐる動向に注意する必要。

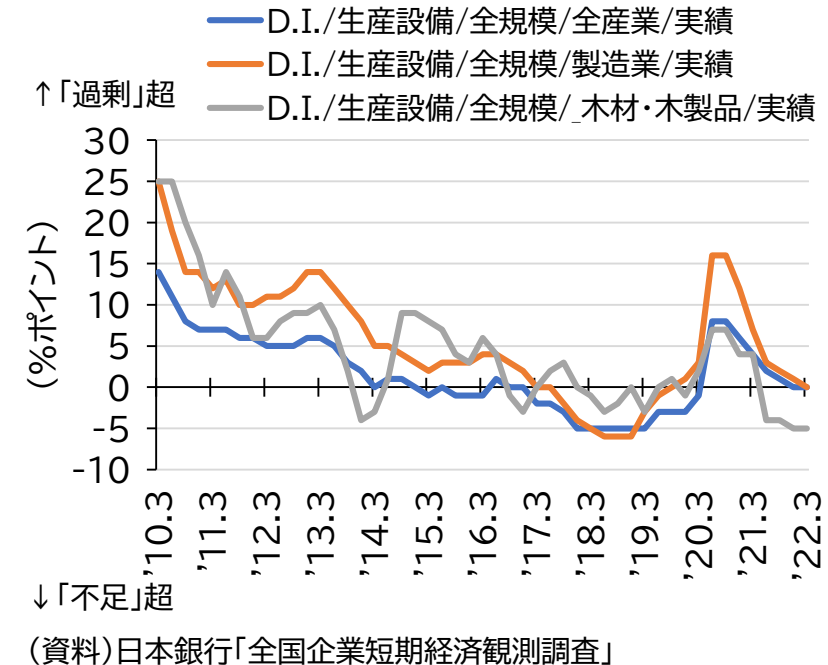
## 新規求人数の推移



## 雇用人員判断DIの推移



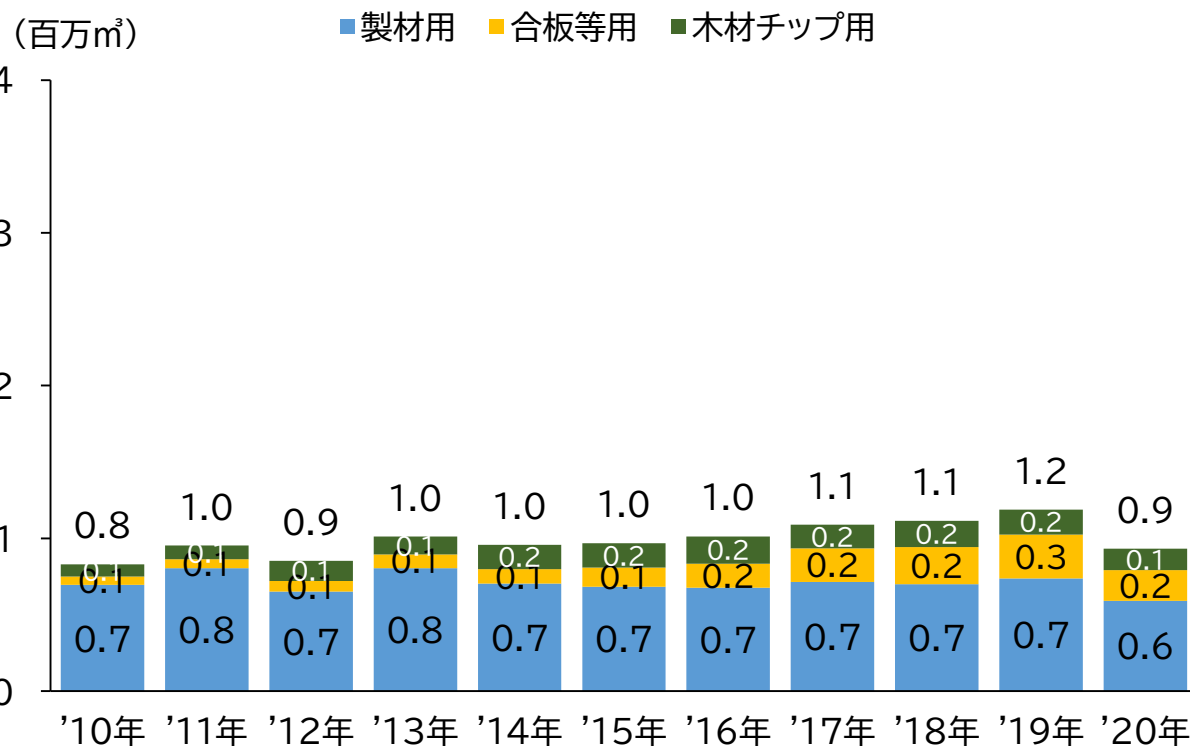
## 生産設備判断DIの推移



# 焦点1：単板樹種の代替を進めること、ただし乾燥余力がネック

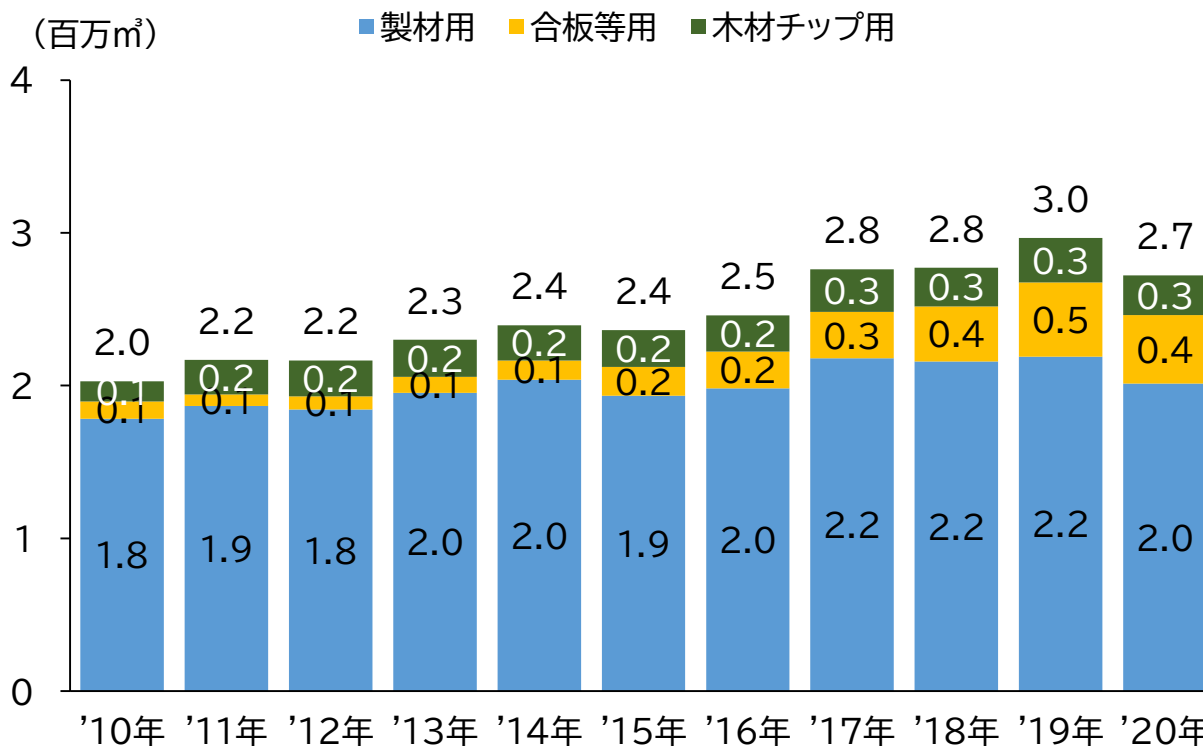
- 国産スギは、ロシアカラマツの単板が有する強度などの要求性能で劣るため、代替は難しい。国産カラマツの需給が慢性的に逼迫するなかで、有望な代替樹種は、トドマツ(主に北海道・東北)やヒノキ(西日本)。
  - ・ いずれの樹種も増産し続けており、カラマツ増産と歩調を合わせることで、単板の不足を補える可能性も。
  - ・ 国産スギでも、60年生以上の高品質材であれば代替可能。高品質材の需要が高まる可能性も。
- ただし、ロシア産単板は乾燥製品だったため、国内で単板製造する場合、乾燥余力の少なさが量産のネック。

需要先別エゾマツ・トドマツ素材生産量の推移



(資料)農林水産省「木材需給報告書」

需要先別ヒノキ素材生産量の推移



(資料)農林水産省「木材需給報告書」



## 焦点2：設計施工基準の見直しや合板使用部位の代替を進めること、調達難が課題

- 外装材大手(ケイミュー)は屋根下地の設計施工基準を見直し、従来、使用不可だった「全層杉材使用したJAS適合品の構造用合板」での施工も22年4月から可能に。垂木(小屋組構造材)の間隔を狭める見直しを急遽実施。
- 合板使用部位は、耐力壁などの構造部位や屋根・床などの野地板(=下地材)であることから、似た性能を持つ **繊維板・木質ボードへ代替する動きもある模様**。ただし、木粉を接合するための接着剤の価格が上昇しているほか、繊維板・木質ボード等の生産量がコロナ禍以前の水準まで回復しておらず、調達が難しい可能性も。



ケイミューに関する日経XTECHの記事  
<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00154/01428/>

